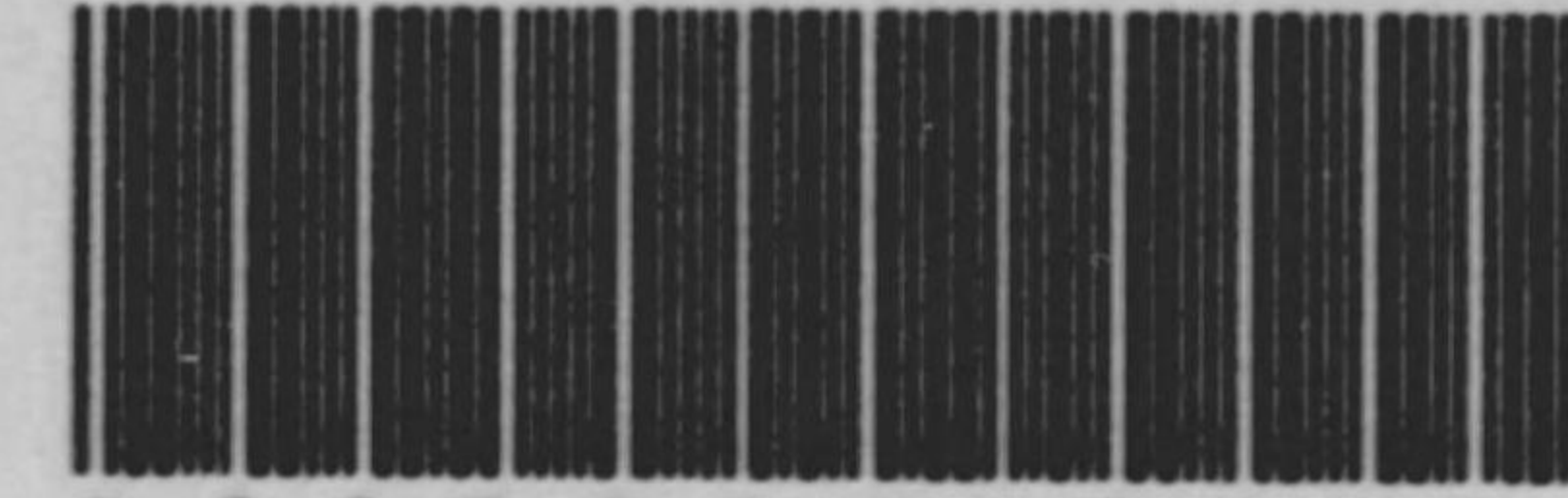


366.7  
TA.71  
②



\*0036441000\*

1

0036441-000

366.7-Ta71ウ

産業人読本

滝川旭・著

鍾美堂

昭和18

AGF

この著作物は、著作権者不明のため、著作権  
第67条の規定に基づき、平成12年3月  
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの



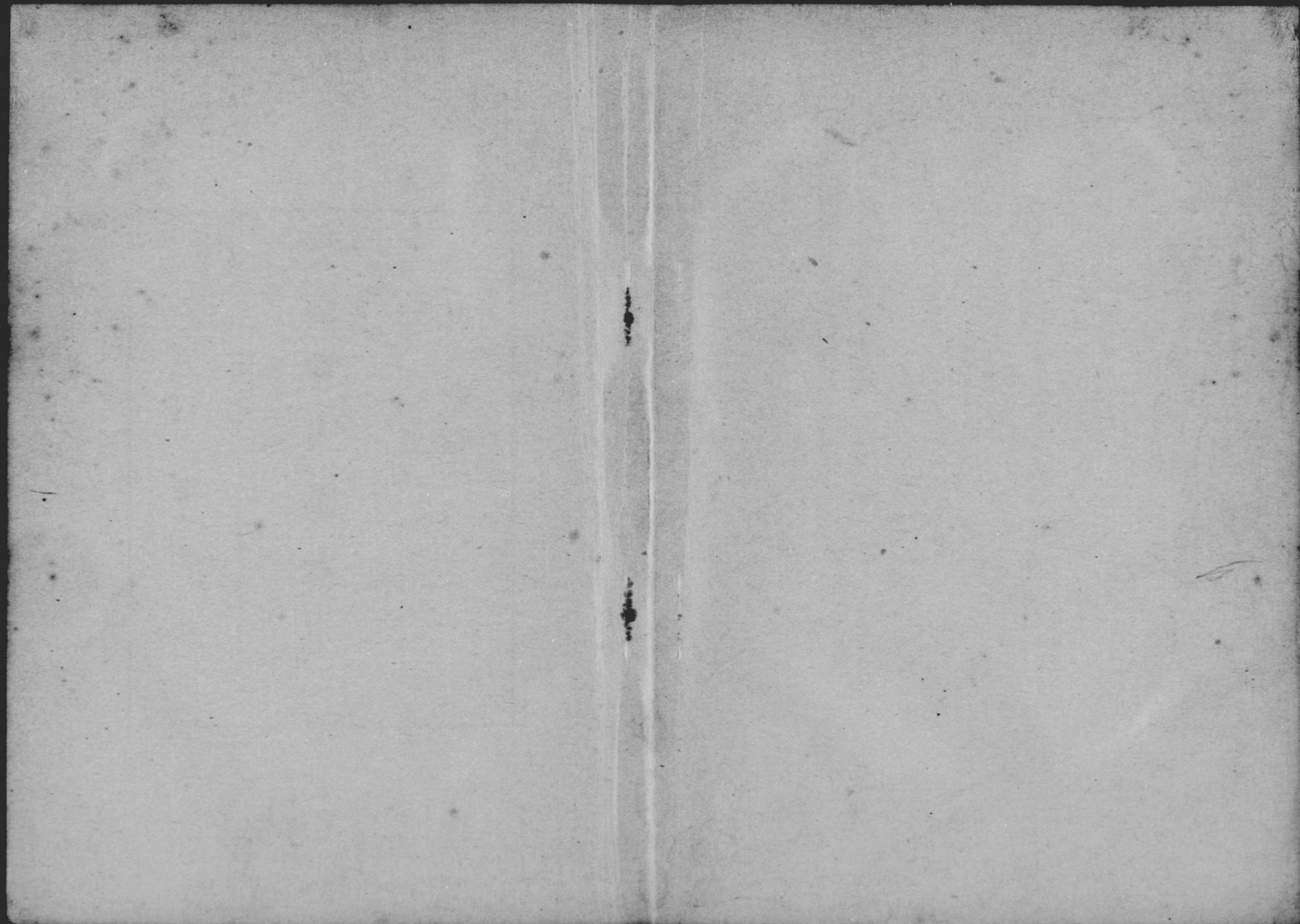
366.7  
TA71  
㊦

# 産業人讀本

瀧川旭著

鍾美堂刊







366.7

TA 71



瀧川 旭著

産業人讀本

鍾美堂刊





全國民はひとしく戦友である。己れ一人の安逸を望み、且つ盡すべき仕事に骨を惜んで、そのために共に立つて戦ふべき戦友を苦しみに陥れて顧みないといふが如きは断じて許すべからざるところであり、如何なる困難、如何なる犠牲をも全國民が等しくこれを負擔する。このことがあつて、はじめて一億一心鐵石の團結は成るのである。全國民が鐵石の團結と火の如き戦友意識を以て堂々と邁進するところ必ずや洋々たる前途が日本の前に展けて來ることを確信してやまないのである。

東條内閣總理大臣



## 序

産業報國運動が直接その任に當つてゐる我々だけの運動ではなく、職域につながる國民全體の勤勞精神の昂揚發露に俟たねばならぬことはいふまでもない、その意味でこの書は一般社會人に日本人としての産業報國精神は如何にあるべきかについて、最も平易に具體的に説かれたものであると言つて良い。世界狀勢の大まかな動きから何故日本に於て産業報國運動が必然のものとして生れて來たかの歴史的敘述も適確だし、特に後半に於ける工場内のリアルな實例などなかなかよく調査されてゐる。謂はゞ直接産報運動にたづさわつてゐない人の書だけに却つて冷靜



な客観性があり、面白いと思ふ。むづかしい理論書ではないが、一般職  
域人のよき常識讀本とでも云ふべきであらう。

大日本産業報國會理事長 小 畑 忠 良

## 小 序

あゝ、昭和十六年十二月八日、遂に對米英宣戰の大詔が發せられ、大東亞戰爭の  
戦端は開かれた、我々は道義觀からも政治經濟の觀點からしてもアングロサクソン  
とは絶對に相容れないといふ考へ方から日米會談發表以來、一刻一刻とその日の近  
づくのを豫想してゐたのであるが、遂に十二月八日その來るべき事態が來た。そし  
て皇國の生きる途もはつきり決つたといふ事を覺悟したのである。開戦劈頭におい  
て深謀無邊の雄大豪壯な作戦と勇敢無比の電撃作戦をもつて我が陸海空の精銳は世  
界戦史に未だかつてない大戦果を收めたことは、我々の言葉で云ひ表はせない強い  
感謝と敬服の念を更に深からしめた。地圖を按ずるにその廣域に不動の陣容を嚴然  
と布く搖ぎなき皇國の武威や實に偉大である。



この偉大なる皇軍の戦果をして一層光輝あらしめ意義あらしめるためには、銃後における不動の体制が必要である。

而もこの戦争は長期戦を覚悟しなければならぬ、それも決戦につぐ決戦の連続をもつてする長期戦なのである。たつた今笑つて散つた友のある事を忘れてはならない。血みどろの戦ひが東京灣に通ずるソロモンの海に繰り展げられてゐる。而して労働力にも限りがありこの決戦的生産戦を武力戦とともに勝ち抜くには能率の増進を措いて他にはない。それも長期戦に堪え得る基礎の上に立つた能率増進である。云ひかへれば産業戦士の強健なる肉體と精神が必要なのである。

お互が昔のまゝの職工、女工であつてはならないのである。戦時日本の産業を背負つて立つ産業戦士にふさはしい教養と、又長期戦に耐えるだけの精神と肉體の錬成が必要である。第一線の戦果が大きくなればなるほど、それだけ産業戦士諸君の使命はますます重大性を加へて来る。

銃後産業人に課せられた任務はこのやうに大きい、これは何と云つても大日本産業報國會の綱領にもある如く、事業一家の精神に則つた事業主、勞務者渾然一體の、理論ではない心の結ばれなければその目的は達成出来ない。この意味から産業戦士の輔導と錬成は大東亞戦争を勝ち抜くために是非實行されなければならない不可欠の要件と云つても過言ではなからう。

私は本稿を執筆するに當り全産業人に讀んで貰ひたいと考へた。特に職場の中堅指導者には隔意なき批判を賜りたいと思つてゐる。時の流れは豫想出来ないスピードで進行する。それに追ひつくべく懸命の努力をしたが自分では満足すべき結果が得られなくて残念であつた。何れ機會を見てこの不満は補ひたいと思ふ。

昭和十八年は決戦の年、産業人の一人一人が敵米英の産業人に決戦を挑む年である。今日も決戦であり明日も決戦である。産業戦士の興起を切に望みたい。

大日本産業報國會理事長小畑忠良氏が極めて御多忙の中を、快く著者の乞を容れ



貴重なる序文の筆を執られ過分の讃辭を賜り、こゝに深き感謝の意を表する次第である。

四

昭和十八年三月

著者識す

### 目次

#### 序

大日本産業報國會理事長 小畑忠良

#### 著者小序

#### 大東亞戰爭必勝と生産擴充の完遂

大東亞戰爭と産業界……………一  
 ヨロッパ戦争……………三  
 大東亞戦争を勝ち抜くためには……………九

#### 産業人の教養と榮譽

おやち教育……………二三  
 職長教育……………二六  
 勤勞の榮譽……………三〇

目次

一



### 若き産業戦士の輔導

少年産業戦士輔導週間…………… 四  
 事業主、職長級指導者に望むもの…………… 五  
 家庭と一般社会に望むもの…………… 三  
 『不良工』問題について…………… 三

### 産業報國精神と産業人の錬成

常識について…………… 六  
 國家總力戰…………… 八  
 職場も戰場…………… 七  
 國民娛樂と厚生運動…………… 一〇  
 産業戦士の健康増進…………… 一四  
 全産業一體事業一家…………… 二四  
 むすびの言葉…………… 三〇

### 産報資料

…………… 三五

## 大東亞戦争必勝と生産擴充の完遂

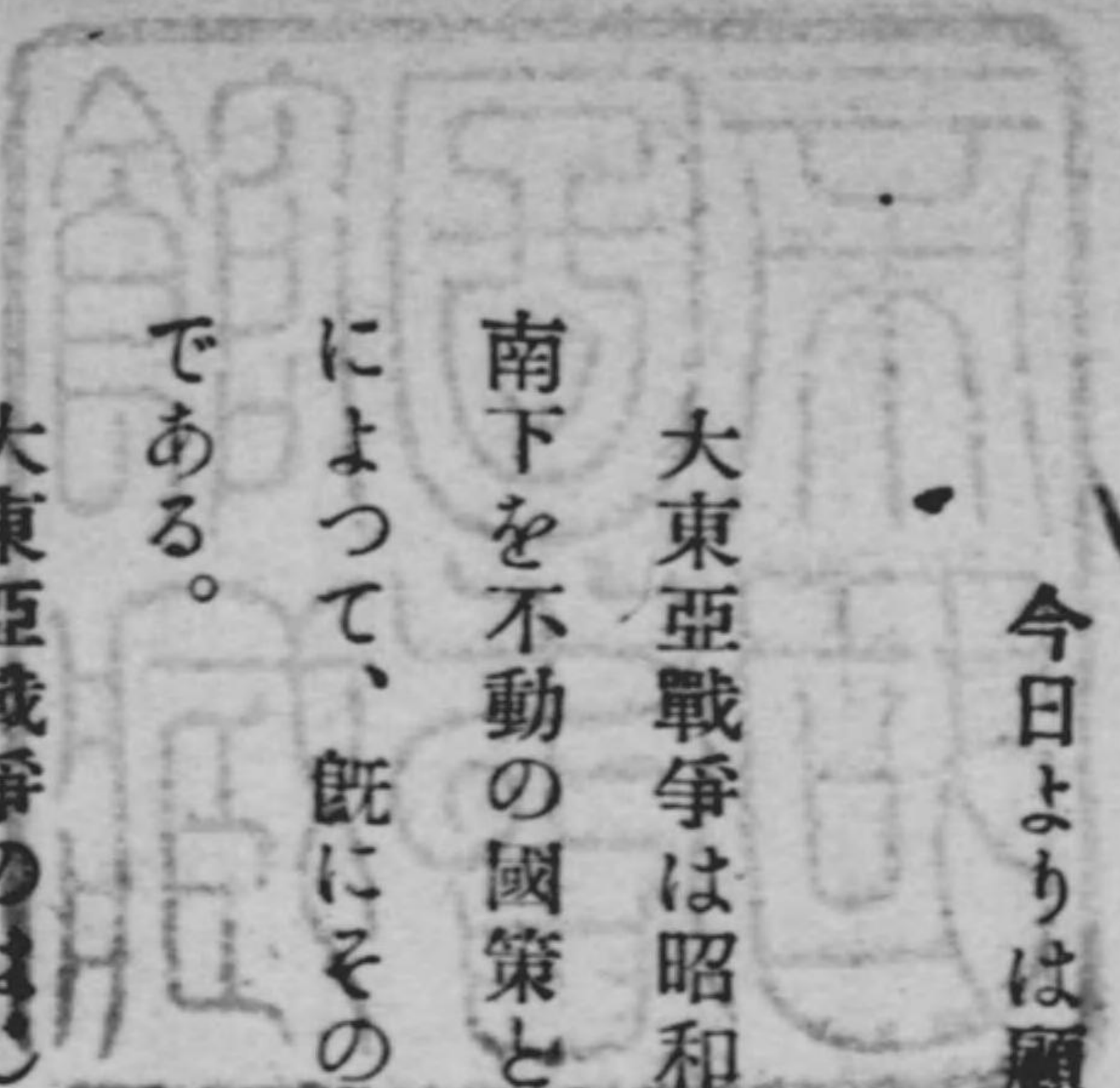
### 大東亞戦争と産業界

今日よりは願みなくて大君の

醜の御楯といで立つわれは

大東亞戦争は昭和十六年十二月八日はじまった。しかし私は大東亞戦争はアジア南下を不動の國策とするロシアと、大陸を生命線とする日本とが衝突した日露戦争によつて、既にその時大東亞戦争の端緒が芽ばえたものと斷じてはばからないものである。

大東亞戦争のはじまった事について我々はその根本原因が何であるかをつきとめ、その真相を掴むことが必要である。





外部的に見ると日米交渉の経過を見てよく分るやうに、米英の自由主義的な世界制覇の野望、殊に思ひ上つたルーズベルトの妄想が大きく禍ひしてゐる。又内部的に見ると、日本の伸んとするやむに止まれぬ大きな力と舊秩序を保持せんとする米英との衝突である。

明治以來激増する人口は日本の領土だけの力では養ひ切れない有様で、これを外に求めなければ日本の立つ道はなくなつたのである。經濟的にも何處かへ伸びて行かなければ一億の日本民族は生きて行けなくなつたのである。そして遂に南下せんとするロシアと大陸に伸びんとする日本は、シベリアの野に戦ひそれから日本の發展の途は漸く開かれたのである。

アングロサクソンは金持ち喧嘩せずで、自分の發展勢力の維持には汲々としてゐるけれども、直接自國がその矢面に立つことは避けて第三者を戦はせ、自分はその蔭にあつて糸を操るのが常套手段であつた。米英が蔣介石に援助して抗日戦を戦は

せたのもそのよき一例である。

日露戦争當時米國は日本に好意を寄せて英國も日英同盟の手前日本に援助したのであつたが、しかしこれは日本を利用したに過ぎなかつたのである。日本がロシアに勝つたのち、米英は日本がロシアにとつてかはるのを恐れはじめたのである。その結果媾和に當つて米英は日本に何らの利益を與へず、あくまでも自國の手に利益を握る事を忘れなかつたのである。

例へば日本の財政的疲弊に乘じ、わづか一萬圓で南滿洲鐵道を買収しようとした。これは時の小村外相の英斷によつて事なきを得たが、米國は冷靜な態度をとつてゐたのであつた、といふのは必ず日本が金に困つてそれを手放すに違ひないと高をくゝつてゐたからである。しかし堂々たる日本國民の努力は遂に酬いられ、戦後ますます國力は伸張した。日本の發展は國家の運命を賭しての止むに止まれぬ發展でありその手段は常に平和的であつた。米國はこの事實に愕然とした、そして米英



は日本に武器を持たせないのが一番安全だと考へて、英國は日英同盟を弊履の如く破棄し、諸國を誘つて日本に壓迫を加へはじめたのである。殊に廿年前ワシントン會議において暴戻なる米英の非道の壓迫をうけ、5・5・3の比率を日本に押しつけ、彼らはそれによつて日本は永久に勝利から見放されたとなしたのである。

爾來日本海軍はいはゆる「月月火水木金金」といふ課程の下に、量より質を目標に血のにじむ奮闘をつづけたのである。

帝國の勝利は卅七年の久しい年月に互る血と汗の苦心の結晶である。明治卅七八年の戦役が終ると同時に、我々は次に太平洋を侵さんとするものに備へた。日露戦争中、日本に好意を示した米國は帝國の戦勝によつて内心敵意を抱きはじめ、ワシントン會議、滿洲、上海事變における壓迫、支那事變における惡辣極まる策謀など數限りない暴戻を敢えてなし來つたのである。この米の露骨な極東政策によつて、この次に日本が攻撃されるのは米國からであるといふことを日本は自覺させられた。

のであつた。大東亞戦争の勝利こそ、この卅七年間米英のあらゆる策謀と壓迫のうちには靜かに耐えて、今日の機會に備へつゝあつた血涙の賜物なのである。

今こそ世界人類の平和のために長年の手かせ足かせを斷ち切つて未來永久に再び立つことの出来ないまでに米英をやつつけるために立上つたのであつて、大東亞戦争は日本にとつて宿命的な戦ひであると同時に、天の國民に與へられた尊い試鍊なのである。

昭和十六年十二月八日といふ日は我々日本人にとつては永久に忘れることの出来ない記念すべき日である。その十二月八日長くも宣戦の大詔渙發せられ、無敵の我が皇軍は陸に海に又空に當るを幸ひ米英勢力を木ッ葉微塵に破摧しつくしたのである。世界をアツと驚かせた特殊潜航艇に身を委ね、眞珠灣軍港内深くつき進み、アメリカ太平洋艦隊を撃滅し櫻花の如く散つた九軍神でよく御存知のハワイ沖の海戦をはじめとして、雄渾無比なる皇軍の大作戦は遂に太平洋、印度洋の彼岸に押し



進み、我が砲火の威力は、まるで掌を指す如く、悟も池面の渦紋の擴がるが如く、北は米アリニューシヤン群島に、南は濠洲シドニーに、西はアフリカ洲マダガスカル島にまで及んだ。

アリニューシヤン、マダガスカル間の直線距離は一萬マイルに近いが、この廣域内の各陸各海に發展せる諸戦闘は例へば最近の南太平洋海戦の如きに至るまで、すべて我が軍によつてイニシアチヴがとられて居り、敵は端倪すべからざる我が戦略戦術を如何に防ぐかと唯々奔命に疲るゝのみである。かくして戦前喧傳されたABC包圍陣は開戦後一年にして文字通りのあぶく陣營と化し去つたのである。

シドニーは日本から四千五百哩を距てた濠洲の心臓部であつて、珊瑚海的大海戦で敗北を喫した米濠兩國は、此處を最後の據點として多數の艦船を退避せしめ又濠洲自體の陸海空軍の防衛陣を強化して、米濠當局をして「濠洲は絶対不敗の地位を確立した」と豪語せしめたのである。

又マダガスカル島は印度洋を隔て、遙か七千哩の彼方に位し、我が日本の印度洋制壓に對抗するため米英兩國がこれをフランスより強奪して彼らの前進基地としたのである。しかるに帝國海軍はこの兩地に殆んど時を同じうして大強襲を行ひ、彼らに莫大なる損害を與へたのであるから、この作戦が如何に壯大にして雄渾なるものであるかといふことが分ると同時に、たゞに米英濠の聯合軍に對して非常な戦慄を與へたのみならず全世界を驚嘆せしめたのである。

かういふやうにして一昨年十二月八日といふ日をもつて日本は東亞の眞の指導者として起上つたのである。しかしかう云つたからと云つて決して世の中がおだやかになつて來るとか、もう米英は參つてしまつたのだといふやうな考へを持つ人があつたとすれば、それは飛んでもない大間違ひで今も昔も超非常時に變りはないのである。

いつアメリカが空襲して來るかも分らない。



いつイギリスが襲撃して来るかも分らない。

八

ましてや複雑な現在の國際情勢の下にあつては、中立を守つてゐる國といへどもいつ敵に廻つて攻撃して来るかも分らない。これ位のことは誰でも一應は分つてゐて、今の時代が決してそんな生やましいものでない事位は知つてゐると考へる。

『戦はこれからである』といふことは、近代戦の特徴である總力戦が、すなはち長期戦化への必然性を持つてゐることを考へれば自ら分るであらう。しかし色々な理論は抜きにしても私を一番喜ばしてくれるのは、大東亞戦争がはじまつてから以後、その開戦の産業戦士に及ぼした影響である。各種の困難がますます加重されてゐるにも拘らず、全産業労働界は異常な緊張を示し、大日本産業報國會中央本部の提唱した職場の規律確立運動、皆勤實行運動、機械實働率増進運動と相俟つて、全産業労働界が眞に一丸となつて聖戦の目的完遂に突進するに至つたことである。

先づ對米英戦争が勃發するや大部分の工場においては何れもラジオ放送を全員に

傳へ、特に聖戦大詔渙發のラジオ放送の際は一時作業を中止して拜聴せしめ、或は嚴肅裡に詔書捧讀式を舉行し、社長もしくは代表者より職場死守、生産能率の最高度發揮によつて産業人としての責務を全うすべき旨を激勵慫慂し、これに對して勞務者も又欣然として應諾の宣誓を行ひ銃後生産の確保に挺身するの氣概を示したのである。中んづく軍管理工場その他重要工場方面においては直ちに工場防衛團を實戦即應の態勢に移し、防空組織、人員ならびに防空器材の點檢を行ひ、あるひは係員の夜間當直を實施するとか、あるひは防空計畫を周密に検討し又は非常召集の臨時措置を講ずるなど、首脳部は長期に亙る精神的緊張と生産確保を期していろいろの方策を講じて順次實施に移したのである。

斯くの如くにして今次の開戦に際しては事業主、勞務者が眞に事業一家の精神をもつて事に當り、すこぶる士氣は昂揚したのである。例へばこれを出勤率の狀況から見ると、戦前においては各工場とも平均八八%から九〇%を示してゐたのである



が、開戦後は平均九五%といふ高率へ上昇したのである。以上はその一部分に過ぎないが、殊に大日本産業報國會で実施した皆勤實行運動においてはすばらしい成績をあげ、その中の成績の極めて優良なものは昨年七月廿二日大東亞會館において九十二といふ單位産業報國會が表彰せられた。今それらの出勤率を業種別に見ると大體次のやうになつてゐる。(昭和十七年一月—三月)。

金屬工業	九八・六九%
機械器具工業	九九・七七%
化學工業	九九・三六%
金屬及その他の鑛山	九八・〇二%
石炭山	九七・〇〇%
紡織工業	一〇〇・〇〇%
運輸通信業	一〇〇・〇〇%
その他の産業	一〇〇・〇〇%

(電力或は食糧品その他前者に屬せざるすべての産業)

反面缺勤状態を見ると開戦後はその殆んどが疾病によるものであつて、從來のやうな怠業的な缺勤といふものは皆無と云つてもよい状況にあるのである。尙ほ精神的な緊張の一例としては、

「平素の勤務状態が良くないので轉勤を命ぜられた一勞務者が、これに不満を抱いて辭表を提出缺勤してゐたのであるが、時恰も米英と開戦のニュース放送を聞くや直ちに出勤し、自分の行動の誤つてゐたことを謝ると同時に從來には増した勤務ぶりを示した」などといふこともあり、又

「開戦當日の首腦部の激勵訓示に感奮し、翌九日より自發的に卷ゲートルを着用出勤してゐるものもある」など、これらは一、二の事例に過ぎないのであるが、以て全産業人の緊張ぶりを窺ひ知ることが出来るのである。この士氣の昂揚についての具體的な事例は職場内における日常の出來事についてもこれを見ることが出来るのであるが、例へば工場内の落書にしても、從來は兎角不平不満の跡が見られたが、



開戦後は殆んどいはゆる建設的な方向を示して來た。その一、二の例をあげると、

- 一、皇國の興廢この一戦にあり、工員一層奮勵努力せよ、
- 二、工員よ、今後一日たりとも缺勤するな、産業戦士として頑張れ、
- 三、君らの誠意ある仕事、それこそ何ものにも勝る兵器だ、立て！ 工員、守れ職域と國土

などである。

とまれ、大東亞戦争がはじまつてからの産業人の緊張と心意氣とは、非常に安んぜしむるものがある。この氣魄あればこそ、國家の最も要請する生産力の擴充とそのため能率増進は期して俟つべきものがあり、こゝに大戦に處する國內不動の態勢は全きと云ふべく、正に第二戦線異常なしの感を更に更に深からしめてゐる。

### ヨーロッパ戦争

西曆一九三九年九月一日、即ち紀元二千五百九十九年九月一日にドイツ軍は怒濤の如き勢ひを以てポーランドに攻め入つた。これが第二次歐洲大戦の勃發である。

ポーランドはドイツ軍の鐵蹄下に蹂躪されながらよく持ちこたえたが、遂に廿九日獨ソ兩軍間の調印によつて、ヴェルサイユで生れたポーランド共和國は眞二つに分割されたのである。この日をもつてポーランドは存立すること二十年といふ僅かの歴史をもつて歐洲地圖から姿を消したのである。

ポーランド戦争が終りかけた頃ソ聯は、エストニア海岸でソ聯船メタリスト號が撃沈された、タリン港で抑留中のポーランド潜水艦を逃亡させたのは誰だ、——などと云ひ出してエストニアを、次でラトビア、リスマニアを次々に手練手管をもつて欺しこみ、遂に一九四〇年七月ソ聯がお手盛の總選舉を行つて、この三國を併合してしまつたのである。ところがバルト三國で味をしめたソ聯の觸手はフィンランドに伸び、まづオーランド島の武装はけしからんと難癖をつけたのであるが、フィン



ランドは「神は我らの要塞なり」といふ国歌を齊唱して悲憤と感激に咽び遂に十一月卅日開戦した。ところがフィンランドにはマンネルハイムといふ智謀の將軍が居つたので、これは完全にソ聯の失敗に歸したのである。

一方獨佛間の戦闘状態はといふと、獨ジীগフリード線、佛マジノ線といふ二つの要塞線をもつて對抗し、宣戦の布告はしたが戦は開かれてゐなかつたのである。しかしその安閑さも長くはなかつた。獨軍の急進撃は一九四〇年四月九日をもつて物凄い勢ひで開始されたのである。すなはちこの日獨軍はノルウェー、デンマークに進撃こゝに北歐戦の幕は切つて落され、ついで五月十日、オランダ、ベルギー兩國に雪崩を打つて攻め入つた。この時、戦史に輝やく威力を示したのが落下傘部隊である。オランダ軍は得意の洪水戦術で對抗したが、もとより何の及ぶべくもなく十三日、ウイヘルヘルミナ女王はロンドンへ逃亡、十四日にはウイケルマン蘭軍司令官は降伏を申出たのである。ついで獨軍はセダンから佛領に突入、十七日遂にフラン

スは敗れたのである。フランダーズの殲滅戦として有名な百廿萬といふ物凄い捕虜を残し、卅三萬のイギリス軍が命からがら本國に歸つたのはこの時のことである。

この間イタリアが六月十日參戦した。こゝに獨伊兩軍が歐洲の天地に樞軸の威力を遺憾なく發揮することになつたのである。ついで九月廿七日あの歴史的な日獨伊軍事同盟が成立し、一九四一年四月六日獨軍は又もや轉じてユーゴスラビヤ、ギリシャに進撃を開始、ユーゴは同十七日無條件に降伏した。そしてユーゴスラビヤの首相シモビッチは、早くもその十日ごろペテル幼王を擁してギリシャに逃亡、今ではこれ又ロンドンで幽霊政府を樹てゝゐる。

一方ギリシャは四月六日ヒトラー總統のギリシャ進撃となつてから、その疾風の進撃ぶりに忽ちギリシャ政府、軍部とも動搖を來し十八日にはコリス首相はピストル自殺するし、國王のゲオルギオス二世が自ら内閣を組織してみたものゝ、はじまらず、廿三日國王以下はクレタ島に遷都同日ギリシャ軍主力は降伏した。そして



五月廿日戦史空前のグライダーで兵隊を送ったクレタ島作戦がはじまり、六月四日には全く掃蕩は完了しゲオルギオス二世は獨軍落下傘部隊に包圍され、あはや生どりの土壇場まで追ひつめられたが山の牧場の穴藏に隠れたりして、どうやら便船を見つけてエジプトへ遁入してしまつた。

ところがそれどころではない大戦争が勃發した。六月廿二日の獨ソ戦の勃發がそれであり、歐洲戦は新局面を展開した。そして世界大戦は、こゝにはつきりとした輪廓をもつて現はれ今や獨ソ間には繰返し／＼死闘が演ぜられ、今日に至つたのである。獨軍は伊軍と密接な關係を保ちつゝ、着々と歐洲廣域經濟圏の建設に邁進してゐるが、その蔭における勞務者すなはち産業戰士の緊張も物凄いものがあり、ヒトラー總統も勞務者に對しては特別の關心を拂ひ、これが勞働力の維持培養には常に注意を怠つてはゐない。前線に活躍する兵士に劣らぬ銃後の産業戦線に雄々しく奮闘する勞務者に對し、ヒトラー總統は先般のナチス黨の九周年記念日に當り左の

如き演説を行つて勞務者の一層の奮起を促した。

『働け！ 武器と彈藥を生産せよ、單に武器と彈藥を生産せよ、さすれば諸君は敵と戦つてゐる多數のドイツ國民の生命を救ふであらう、勞務者よ！ 我々の輸送に邁進せよ、さすれば、我々の將士は戦場にて必要なるすべての物を持つことが出来る。而して我々の將士は彼らの義務を完行し我がドイツ祖國は、何もかもおそれる必要はない、我々の神への祈りは遂げ得られるに至らん。天に在る萬能の神よ、我々の自由のため、子孫の自由のための我々の戦ひにおいて我々に力を與へ給へ。しかも我々がこの戦ひを敢行してゐるのはドイツのみの爲めではなくヨーロッパ全體のため、否全人類のためである、この戦ひのため力を與へ給へ』

以上の如くにてヒトラーは、神に必勝とヨトロツバ新秩序建設と、世界全人類の平和を祈り合せて勞務者の全幅的協力を求めたのである。更にヒトラーはかうも云つてゐるのである。



『戦場に働いてゐる多数の子弟のいのは銃後にある我々の手中にあるのである。そして銃後國民の絶大なる汗と力とのみが、我々の全體の血を助けてくれるのである。故に戦場で要求する全ゆるる武器、全ゆるる必需品などといふものは何でも皆提供するところ、故國にあつて第一線の戦闘を見守る銃後國民の最高の義務である』と。

かうしてヒトラー總統は、銃後生産力の増強と能率の増進とに絶大なる期待をかけ、その大いなる協力を要請してゐるのであるが、現下の大東亞戦争を完遂せんために、一億總進軍を開始してゐる日本にとつても、もつて他山の石とすべき意味深き言葉ではなからうかと考へる。又ドイツでは常に

「勤勞を尊べ！ 勞務者を敬へ」と勤勞の重要性と勤勞の榮譽を強調してゐるのである。

何れにしても、今や日獨伊の三國は世界の新秩序建設を目ざして、乾坤一擲の大

決戦を演じてゐるのであつて、この機會に軍事、經濟政治のみならず、特に三國の銃後第一線に活躍してゐる産業戦士も、銃後生産確保同盟といふやうなものを結んだ氣持になつて、敵の謀略にかゝらないやう、そして前線の兵士を安心させるやうにガツチリ腕を組んで行かねばならない。

### 大東亞戦争を勝ち抜くためには

右に述べた如く日獨伊三國は世界の新秩序と、世界恒久平和の建設に向つて東西の兩域においてガツチリと手を結び、米英を中心とする現状維持的持てる國であつた舊體制群と、國家の興亡をかけての決戦を續行中である。日本としてはこの大東亞戦争を何が何でも勝ち抜かねばならない、それがためには全日本人が眞に一億一心、一億火の玉となつて増産に貯蓄に一生懸命に力を合はして働いて行かねばならない。



極く最近までは事業主と勞務者、農民と地主あるひは勞務者同志がいさかひをし決して圓滿にそのいはゆる一億一心、協力一致の實は上げられてゐなかつたのである。それではいけない位の事は諸君もよく御承知のところである。戦争に勝つたためには、之れに必要な武器とか、彈藥を造るために石炭が必要である。石炭を掘り出すためには石炭の増産を行はねばならない、又同じく金屬が足りなければこれも澤山掘らなければならぬ、といふので石炭、金屬の増産といふことが行はれるのである。斯くの如くにして、何が何でもこの大東亞戦争を完全に勝ち抜くために、動員して行かねばならないのである。

かういふ時代に際會して居り乍ら、事業主と勞務者がいがみ合つて居ればどうなることであらう。それこそ増産も生産擴充も望んでも無理なところであり、ましてやこの戦争の完遂などは思ひもよらないのである。私はそんなことは斷じてないと昔から思つてゐる。今ごろ、さういふやうな話をする人があれば、恐らくその人は

笑殺されてしまふであらう。それほどみんながこの大東亞戦争を勝ち抜かうと張切つて居るのであり、それは私にとつても最も嬉しく感じてゐるところである。

前の企畫院次長、現在大日本産業報國會中央本部の理事長小畑忠良氏は「照于一隅」といふことをよく云はれて居る。これは「いちごうをてらす」と讀むのである。それは一體どういふことであらうか。

昔天台宗の宗祖傳教大師が、全國へ教へを廣めに比叡の山を降りて行く弟子のお坊さんたちに與へられた言葉の中に「一隅を照らせよ」といふのがあつた。日本において、全國全世界をあまねくお照らしになるのは天照大神のみすえであらせられる。天皇陛下御一人であつて、我々はひたすら御稜威の下、一隅を照らすことのみを心がけて一意精進してこそ臣道實踐、職域奉公の道に適ふものと云へるのである。

己れの力働や、頭の工合も省みずに徒らに高き地位に上ることのみを考へて、自



分にそれほどの徳も光もないのに、世界を照らさうと考へるのは身のほどを知らぬ自惚者であつて、あまねく照らすどころか、かへつて逆に周圍に自らの影を落とし、陰をつくるやうな事になつて一隅をさへも照らすことも出来ない。

それ／＼の職分において、自らの職域を忠實に守つて、力の限り熱心に自らのつとめを果して行くことが、すなはち一隅を照らすといふことなのである。そして一人一人の力が、積り積つて一億人の力となり、生産力はますます／＼擴充され、大東亞戦争の完遂を一日早めることになるのである。

産業戦士諸君よ！昔から光は東方よりと云はれてゐる、今や世界は日本の手によつて、そして我々の偉大なる働きによつての夜明けが來たのである。職場は我々の戦場である、協力一致、勤勞の榮譽を双肩に持場、職場で力の限り働らかうではないか。私は特に望みたい、東亞十億勤勞者の指導者になれ、そして更には世界の産業戦士を率ひて立つだけの確信と氣魄を持つて――。

## 産業人の教養と榮譽

### おやぢ教育

現在の日本の戦争完遂の目的が、大東亞共榮圈建設を目ざして推し進められてゐると同様に、全日本の工場事業場もその方向に向つて進んで行かなければならないことは、もとより當然のことである。國家と工場事業場は斯くの如く同一使命と同一目標をもつてゐるのである。かゝる意味からして、今や工場事業場の安易なる經營は絶対に許されないのである。すなはち、劣悪なる勞働環境と低廉不當なる勞働賃銀をもつて、唯一無二の利潤の根源であるとなし、その前提の上に立つて經營を行つて行くが如きは、全ゆる物が大東亞戦争完遂へと再編成され動員集中されてゐる今日の日本の國情とは絶対に相容れないのである。



事業主あるひは經營擔當者は、國家至上の命令たる生産力擴充のために、そして之れがための能率の一大増進に身命を投げうつて、上御一人よりおあづかり申し上げてゐる工場事業場と従業員を輔導し鍊成し、而して督勵して行かねばならない。そも／＼事業經營は人にあり、而してその人を人らしく遇するところに精神があり、人を人らしく働らかせ生活せしめるところに、その目的があるとはよく言はれてゐる。これを要するに、事業の經營は人の和こそその要諦なりと斷することが出来るのである。人の和あつてこそ、はじめて協力一致の團結力を十二分に發揮することも出来るものと信するのである。

こゝにおいて私の言はんとするところは、事業主、あるひは經營擔當者は從來、やゝもすると勞務者を外來者扱ひをし、すべての不行跡を一に従業員の上へのみ歸して、彼らを遇するに道を以てせず、教へを教へるに眞劍徹底を缺き、同じ日本人である彼らを目してあたかも、烏合の大衆の如く考へてゐたではなかつたであらうか――。

事業の利益は株主のみの専有物ではない。それは資本のおかげであり、勤勞者のおかげであることを絶対に忘れてはならないのである。又勞務者を遇するには金錢をもつてせず、精神的指導教育に中心をおいてしなければならぬことも當然である。精神的に上と下とがガツチリと組んで、その人の和を根基として、すなはち、上意下達、下意上達の密接なる協力態勢の下に工場經營を行つて行くならば、云ひかへれば工場經營が眞に道義に徹するならば、工場の氣風は作興し、産業能率は云はずして異常なる躍進向上を示すものと確信して疑はないものである。

工場が惡風に染まり、作興など期待も出來ず、更に現下最大の喫緊事たる産業能率の増進も思ひも及ばぬとするならば、それは要するに『人の和』がなく、協力一致の實が上らぬといふことに基因してゐるのであり、工場の百害はすべてそこにありと申しても過言ではないと考へてゐるものである。工場において「人の和」を得



んとせば全く「人を人らしく遇する」以外に途はない。以上の意味合からして最近某々の工場において実施せる工員の月給制度は、まこと人を人らしく扱ふ人の和を如實に示し、その効果見るべきものあるのは極めて注目さるべき事からであると同時に、もつて他山の石とするに足る傾向と考へて居る次第である。

次にこの月給制度を大英断をもつて実施し、非常な好成绩を収めたパイロット萬年筆の渡邊旭氏のお話を附記して参考に供したい。

『百年河清を俟つといふ言葉が昔からあるが、河の濁るのは濁るだけの原因があるのであつて、その根源の原因さへ取除けば、濁れといつても河は濁らぬのが本来である。然るに根源の原因をそのまゝにしておいて、河の濁るのは致し方ないと諦め、濁つた水に明礬を投入して澄まさうと考へるのは本末顛倒である。而して若し福利施設をもつて明礬の作用を受持つものと考へるならば、それは極めて短見であり、賃金制度それ自體が福利施設であるべきである。』

請負制度における従業員は、社長さんや工場長さんに従つてゐるであらうか、社長はいふ「このごろの職工はどうも生意氣だ、あれだけ高い賃金を拂つてゐる、然るに別段有難いとも考へてゐない」——と。

それには、わけがある、社長は賃金を與へたと思つてゐても、従業員は腕で稼いだものと考へてゐる、そこに喰達ひがある。

更に請負制度においては、血氣旺んの廿歳から卅歳までは相當収入もあるが、四十にもなればだん／＼減つて来る。これでは彼らの希望の綱もブツツリ切れたも同然、かゝる事實を知り乍らそれは經營者の責任ではないといふのは、生活の保障をする等と云へた義理でない』

私は、勞務者に生活の安定を與へ輔導、鍊成施設を整備し、皇國勤勞者として勤勞の榮譽と自覺を與へるところに、事業主の尊い責任のあることを叫びたい。さすれば従業員は心から事業主を親とも慕ひ、事業一家の實は期せずして上げられ、更



に従業員をして十二分の能率を發揮させ、この大東亞戦争を勝ち抜くために産報精神の昂揚、勞務管理機構の刷新、勞務者の教養對策、保健對策、健康管理の徹底福利、厚生施設の整備擴充など、あらゆる角度よりする施策に萬遺憾なきを期したならば、眞に全産業が一體となつて劃期的な生産力の擴充も完遂出来るものと信じて疑はないものである。

私は最後に再び云ひたい。

今や安易なる利潤追求を唯一とする、舊態依然たる經營は絶対に許されない。事業一家は單なる固有名詞ではない、上と下とが眞に心が結びついてこそ、その實を上げることが出来るのである。それには事業主自ら眞つ裸となつて、勞務者の中に飛び込んで行かねばならない——と。

### 職 長 教 育

生産力の擴充といふことは現下の最大にして、最重要的な緊急問題であつて、全ゆる分野においてこの問題が取り上げられなければならないのであるが、生産力擴充の途上においては又全ゆる部面において、特に職長の仕事が最も大切であり、この際職長に大いに頑張つて貰はなくてはならないことは云ふまでもない。

職場における青少年工の指導的立場にある職長の任務は極めて大きい。職長といふ勞務者層は現在勞務者教育の對象として、一番やかましい問題になつてゐる。いろ／＼の理論は抜きにしても、とも角、職長にこの際大いに頑張つて貰はなければ生産力擴充はいはずもがな、ましてや大東亞戦争の完遂などは望むべく無理なところである。職長が本氣になつて働らかなければ、生産擴充も單なる掛聲に終つてしまふ危険がある。このことについては誰しも異論のないところであらう。

そこで『職長教育を』といふことになるのであるが、こゝに言ふ職長とは、一般に工場事業場において職長、工長、組長、伍長、班長などと呼稱され、日常職場の



指揮に當る幹部勞務者の總稱であつて、換言すれば職場指揮者とも呼ばるべきものである。而して職場の指揮者としての職長は命令一下、部下勞務者を意の如く動かし得る實力と自信とを持たなければならぬ。よつてこゝに言ふ職長教育も右の如き職場指揮者の養成でなければならぬ。従つて職場指揮者としての指揮能力と、教養とを涵養しなければならぬ。

工場事業場における勞務者の激増に對して、これを指導すべき幹部勞務者の比率は極めて僅少であり、現在の職長、すなはち幹部勞務者の再教育と並行して、新幹部勞務者の積極的育成も如上の見地からして、又焦眉の急務たるを失はないことはこれ又當然のことである。しからば戦時下、特に職長教育を早急に實施するを要するその理由はどこにあるかといふことになるのであるが、それには大體次のやうな理由が上げられる。

先づ第一に、支那事變が一昨年十二月八日といふ日をもつて、米英を相手とする

大東亞戦争へと發展し、この決戦體制に即應して職長に對する職場指導者としての訓練がますます急を要することになつたといふこと。

第二には、勞務者の増大せるに拘らず十分に訓練された職長が少く、指導者としての資格不十分なるものが職長の任に當る傾向があること。

第三には、近時特に少年産業戰士の激増しつゝあるため、少年指導者としての新たな任務が生じつゝあること。

第四は、生産管理様式の高度化に即應し得る如く、職長に對する管理教育を行はなければならぬこと。

第五は、工場規模の擴充化に伴つて、會社幹部が直接勞務者に接觸する機會が失はれつゝあるため、上意下達、下情上通の仲介者としての職長の責任が増大しつゝあること。

第六には、新入工員に對する技術的基礎的教育並びに鍊成については、各方面と



も相當關心を拂ひつゝあるが、それら新入工を職場内において實地に指導すべき職長に對する教育訓練は強化されてゐないから、兩者の間に均衡を缺く嫌ひがあること、

第七には、最近の傾向として、いはゆる國家の要請によつて轉業せる素人工が激増しつゝある折柄、これらの者に對して特別の注意をもつて指導する責任の生じたること、而して最後にもう一つ忘れてならないことは防諜、あるひは警防などの非常時局に即應する部下指導の責任の生じたこと、

等々、擧げ來れば職長教育の重要性からして枚舉に遑はないが、大體以上のやうな理由によるものである。

以上の如き理由によつて、實施しなければならぬ職長教育なるものは、しかれば如何なる項目をその教育の狙ひとするか、といふことになるが、これは前述の理由から推して自ら明らかであるが、これを要約大別すれば左の如きものでなければ

ならない。

- 一、職長が部下の人間指導者たるの資格と教養を十分に涵養し、産業における下士官としての使命を総合的に果たし得る如くする、
  - 一、職長が受持職場において、職務を十分に遂行し得るやう生産の本質を知悉し、以て作業能率を向上し得るが如くする、
  - 一、職長が上級指揮者と被指揮者との間に介在し、兩者の連鎖としての役割を完遂し、生産組織全體の圓滿なる運行に資し得るが如くする、
- 大體以上の各項に要約出來ると考へる。

さて第一の資格の問題であるが、職長は先づ何をおいても我が國體觀念に徹し、日本精神に基く勤勞の眞義を把握しなければならぬ、同時に現下の時局を認識し青少年あるひは轉業者の指導者としての道を把握し、社會常識を養ひ部下の國民的人格完成の指導者としての道を體得せしめなければならぬ。



次には受持職場の指導者としての職長の務めであるが、これは職長の任務の重要性からして、職長は産業労働一般ならびに工場管理、生産管理に関する理解を深め更に上級指揮者との積極的協力を促進し、仕事の配分の適正化を圖り作業能率を増進せしめなければならぬ。同時に生産技術の進歩に関する認識を深からしめ、率先して不良品の防止、作業法の改善、考案發明に邁進するとともに併せて部下の創意工夫を誘發せしめる。

その他部下に對する技術指導の方策を體得せしめるとか、空襲その他緊急事態に處する指揮者としての處置、態度を訓練しなければならない。

第三番目の項目については、産業報國運動の推進者たる素養を與へ、特に上意下達、下情上通の仲介者たるの立場を明かにし、積極的な活動をなし得るやう訓練しなければならない。

以上職長教育の必要なるゆゑんと、その教育目標について述べたが、この職長の

教育についてはいろいろな方策が取られるであらうが、大體左の方式がどうかと思はれる。しかし如何なる形式によると雖も、飽くまでも指揮者訓練の意圖を失はないやう注意しなければならない。

(イ) 参加者を約廿名内外とし、一定の指揮者の司會にあらかじめ供與された課題を中心として、意見の交換研究討議を行ふ小數座談會式、これはさきに厚生省、大日本産報共催にて實施せる職長實務研究會などがそれである。

(ロ) 題目により講師を選定し、総合的計畫に基いて講義を行ふ方法、すなはち講義式である。

(ハ) 大衆的に動員して講演を行ひ、感銘を與へ發奮の氣運を醸成するを主とする講演會式

(ニ) 適切な教材を與へ、各自に自習せしむる文書による教育方法

(ホ) その他(イ)と(ロ)を併用する式或は(イ)(ロ)(ハ)を併用する式



斯くの如くにして職長は全ゆる角度から、全ゆる機關を動員し、全ゆる方法によつて教育しなければならない。時局は極めて重大である。全ゆる分野において戦時體制、いな決戦體制が要求されてゐる。ましてや戦後生産力擴充の重任を負ふ工場事業場における決戦體制の確立は、急務中の急務であり、その中核をなすものは生産現場の第一線の指揮をとる職長である。冒頭において述べた如くこの際職長諸君には、大いに頑張つて貰はなくてはならない。しかし乍ら最後にもう一つ絶対に忘れてならないことは、職長の教養といふことであり、これについても十分の思ひを致さねばならない。教養といふものについてはいろいろの説があると思ふけれども職長の教養は、どこまでも立派な職長になるための職長自身の努力そのもの——これが職長として持つべき教養ではないかと考へてゐる。單に腕がよいとか、物識りだとか教へ方がうまいとか、なるほどそれは教養に必要な手段ではあつても、教養といふものではないと思ふのであつて、教養は一切の場合にその人の行動に出るのである。

職長ならばあのやうな人に指導して貰ひたいと、青少年達が思ふやうな感化力を持たねばならない。すなはちこれが職長として持つべき教養であると考へる。最後に〇〇製作所にて實施せる組長講習會の要領を附記し參考に供して置かう。

◎◎◎製作所組長講習會

- 一、目的 製作關係組長に對する勤勞精神の昂揚と指導精神ならびに技術の普及
- 二、受講資格者 職場指導係（組長）その他職員にして聴講希望者
- 三、日時 一週三回（月水金）自午後五時——至午後七時
- 四、場所 開會式並に閉會式は修養道場、講義は第二事務所大會議室
- 五、日程（科目並講師）

期 日	科 目
四月二日（月）	開會式並に行

講 師  
總務部長及教化係



〃	四日	水	産業報國運動と勤勞の意義
〃	六日	金	工場の沿革とその創業精神
〃	九日	月	航空發動機要綱
〃	十一日	水	仕事の日程計畫
〃	十三日	金	作業の配分と能率
〃	十六日	月	機械と治工具
〃	十八日	水	設備の管理
〃	廿日	金	航空發動機用材料
〃	廿三日	月	發動機並に補機試験
〃	廿五日	水	規律の維持と働きよき職場
〃	廿七日	金	指導員と心理學
〃	卅日	月	工場生活の體驗を語る
五月二日	水		閉會式並に行

- 所長
- 社長
- 技術課長
- 生産課長
- 製作部長
- 工具課技師
- 機械工場長
- 焼入工場主任
- 検査部技師
- 勞務課長
- 社外依囑
- 副所長
- 所長及教化係

### 勤勞の榮譽

我が精銳無比の皇軍は、史上未だかつてない大戦果を上げてゐるのであるが、銃後にある我々はたゞその大戦果に酔つてばかりゐてはならないのであつて、我々は先づ何をなさねばならないかといふことを考へねばならない。而して大東亞戦争は單に米英の勢力を東亞の天地から驅逐するといふのみではなく、今度は日本が彼ら米英に代つて廣い地域に在る十億の諸民族の指導者となつて、新たなる共存共榮の大東亞を建設し、ひいてはもつと更に大きく世界の新秩序を建設せんとするものであるから、全く眞の戦ひと建設は正に今後にあると云はねばならない。何と云つても今日の我が日本は、この戦ひを勝つて勝つて勝ち抜いて大東亞共榮圏を確立しなければならぬ重大使命を負ふてゐるのである。

今日の戦はいふまでもなくお互の國と國とが總力をあげて戦はねばならない國家



總力戰であることは今こゝで喋々するまでもないことで、たゞに第一線の武力戦のみではなく、銃後と銃後の戦争すなはち第二戦線の戦ひもあり、これも又現在猛烈に戦はれつゝあるのである。この第二戦線に勝つ要素として考へられるものは、何と云つても國家の生産力を高めるといふことが第一である。殊に長期戦下においては絶對缺くべからざる喫緊事たるは云ふまでもない。この生産力を高めるためには何を措いても、勤勞に對する精神をしつかりと把握しなければならない。先づこれが第一番の問題であつて、その次には、その精神を毎日の職場の上に生かして行かなければならない。

その必要な精神とは何であるかと云へば、これはすなはち勤勞報國の精神である。

數年前からいはゆる産報運動が展開せられて來たのであるが、その運動の基底をなすものは、この勤勞報國の精神を産業戦士の一人々々がしつかりと身につけて、

それを作業の上に現はすことなのである。

さて今までの多くの人々は、働くのは喰はんがための手段であると考へて來た。職場を離れた生活がいゆる自分の本當の生活であつて、この生活を與へるために職場に出て働くのだといふ風な考へ方が一般にあつた。従つてこの本當の生活を豊富にするためには、出来るだけ職場で働く時間を短くすること、少し働らいて出来るだけ自分が自由に使ふ時間を多くとるといふことを希望する。たとへば朝は出来るだけ遅く出勤して、夜はなるべく早く職場を引揚げるのを重役づとめと稱して、それが偉いのだといふ風な考へるものが相當あつた。そして夜の時間を出来るだけ早くから多く長く享樂するといふことをもつて、生甲斐のある人生だと考へてゐた風があつたのである。これでは生産能率の上るはずはなく、ましてや刻下の最大問題であるところの生産力の擴充などは到底思ひもよらないところである。私は大東亞戦下の今日、そんな考へ方がもしあるとするならば、この際勤勞生活に對する



考へ方の根本的な置きかへを主張するものである。すなはち働らくといふことが、職場の生活が「自分の本當の生活」であつて、職場から離れた生活はこの本當の生活を培ふ手段に過ぎないのである。

生活は自分のためのものであつてはならないのである。全體のため、民族のため國家のためのものでなければならぬ。而してさういふ生活は、勤勞生活において他にはないはずである。働らくことが目的であつて、餘暇生活といふか今までの自分の時間は手段である、職分奉公とは、かうした立場において行はれることであつて、勤勞を手段と考へる人にとつては職域奉公などあり得ないのである。

勤勞は手段ではなくて目的である。それは上御一人に對し奉り奉仕し、皇國の産業を振ひ起すといふことに盡きるのである。勤勞は日本國民の義務であり、戦線の將士にも比すべき重大任務とそして榮譽を擔つてゐるのである。

戦時下の産業を振興し生産を擴充するためには、全ゆる資材設備および、勞働力

を必要とすることは勿論であるが、それにもまして必要なことは精神であり、その勤勞報國の精神のこもつてゐないものは、いくら製つて見ても戦争に役立つものは一つとして、つくれないのである。前に述べたやうに産業戦士の一人々々がこの勤勞報國の精神をもつてそれ／＼の職場において作業の上に十分に力と熱を現はさねばならないのである。

それにつけても昨年六月四日、内閣總理大臣官邸において表彰された十六名の鑛山勞務者ならびに従業員は戦時非常石炭増産期間において優秀なる成績を収めた人であり、我が日本の生産力と米英の生産力との戦ひにおいて拔群の成績をもつて戦つた、正に銃後の殊勳甲と稱するに足る増産戦士なのである。

表彰された人々の光榮もさることながらその光榮はただ十六戦士のみのものでなく實に全産業人の榮譽である。その人達は『私は働くことが楽しみで今日までやつて來ました。今日表彰されるなんてことは夢にも思つたこともありませんし、又表



彰されるといふことは何かしら面はゆい感じがいたします。毎日毎日働きに出て居れば楽しいのです、缺勤でもすることになれば私の代りを誰がするのでせう、この人手の不足してゐる時に、ましてやアメリカとイギリスといふ強大な國を相手にしてゐる時に仇やおろそかには缺勤出来ませんし、働かなければ體の工合がその日一日とてもヘンで仕方がありません』と口を揃へて語り、又

『我々日本人はあの壯嚴にして優美な富士の姿を心として毎日働らいて來ました。そして心得のない私にも勃然として詩情は起り思はず「我が心似たる姿や富士の山」と讀みました』と語つた産業戦士もあつた（日刊工業新聞六月四日附掲載）。私は勤勞者が國家的な榮譽を擔つて働らくことが國家の名によつて讃へられるといふことを心から喜ばしく感ずる次第である。

前に述べたやうに勤勞は目的であつて手段ではない。米英などは賃金を得るために働くのだといふ考へを持つてゐるのであり、こゝにも日本と彼らとの根本的な物

の考へ方の相違があり、我が國民の大君に仕へ奉る勤勞といふのとは、凡そ比べものにならない下劣な觀念なのである。さればこそ皇國の勤勞の榮譽があるわけである。私は毎日々々それ〴〵の職場において、米英とガツチリ取組んで戦つてゐる産業戦士諸君の御奮闘に對して心からなる感謝と尊敬の念を深めてゐる次第である。

#### 職場のうた

西に東にアジアの敵を

影も残さずほろぼす日まで

職場々々はわれらの陣地

勤務時間におくれちやすまぬ

職場々々はわれらの陣地

規律一律持場の整理

物の置場も覺悟のほども



一糸みだれぬ銃後のつとめ

長し戦さの後方陣地

職場々々の清潔規律

影はさゝぬが油断をするな

敵の五列だ病氣も怪我も

一つ戦車で戦ふ意氣で

共に働らく職場の作法

朝の挨拶 日暮れの辭儀じんぎ

戦さする日のゆかしい禮儀

身なりさつぱり心も軽く

重い任務の職場に通ふ

戦さする日の大事のからだ

あだにやさゝれぬ蚤にも蚊にも

(産報職場規律確立運動の歌)



## 若き産業戦士の輔導

## 少年産業戦士輔導週間

三月なつかしの學窓を巢立つて四月彌生の櫻花も散り、櫻若葉の綠蔭匂ふ五月ともなれば、雄々しく生産擴充戦線に活躍してゐる少年産業戦士にも郷愁は涌き、「おらが國」「わしが國さ」をあとにして職場の人とはなつたけれども、ともすれば臉に浮ぶ父母兄弟への懐しさに、その郷愁は時に生産力擴充上に少なからざる影響を與へ將來の熟練中堅工にひびを入れることになる虞れもあるので、これらの純朴な少年産業戦士をして曲らずにスク／＼と伸びさせようとの意圖をもつて、大日本産業報國會で昨年六月十五日から一週間の日程を組み、少年産業戦士の輔導週間を設けてその萬遺漏のない輔導に乗出しその効果見るべきものにあつたことは時局

柄その意義は極めて重大であつた。

この週間を設けた主旨といふものは「少年産業戦士の自奮振起を促すとともに、職場ならびに一般社會の少年愛護精神を喚起し其戦士輔導の實をあげん」とするものである。

そも／＼いはゆる週間といふものの一般に與へる感じは何かしらその期間だけのものと、名前の通りに受取り勝ちである。この週間とかいふものは又來年廻り來る春とともに行はれるであらうが、少年産業戦士輔導週間はさういふ週間的な考へを根本的に一掃し、永久的な輔導へと持つて行かねばその意義はないのであつて、四月工場に入つた少年産業戦士がたつた一週間そこらの輔導で立派なものになるとは決つてゐないし、又あるものではないと私は残念乍ら確信してゐるのである。

そこでこの週間といふものはたゞ便宜的なものであつて、その週間が過ぎればあとは野となれ山となれといふ意圖で設けられたものでは絶対にないと、これ又確信



してゐるのである。その中で規律の日とか訓練の日とか愛護の日とかいふものが設けられてあるがこれは特にさういふ點について事業主、先輩に氣をつけて欲しいといふことなのであつて、故にいつでも規律の日であり訓練の日であり、そして愛護の日であるべきなのである。

この週間においては特に少年産業戦士輔導週間と名づけられてゐるが、これは若い産業戦士の輔導週間であるといふ風に考へるべきであつて、この若き産業戦士を對象として、これが一人前になるかならぬか、眞つ直ぐ伸びるか途中で曲つてしまふかといふことは、その責任は一にかゝつて事業主先輩の責任であると考へてゐる。少年産業戦士は將來の國家を擔つて立つ土臺石であり、日本産業の運命を双肩に擔ふ重大任務を帯びてゐるのである。

殊に今右の週間實施の對象となつた者は、大東亞戦争の勃發によつて未だ學業にある時代から既に將來の産業戦士としての希望と意氣込に燃えてゐたものであつ

た。その純情無垢の熱意に燃えてゐる少年を職場入り三四ヶ月位で挫折せしめるか、ますます意志を堅固にして長養せしめるかは一に指導者の指導如何にあるのである。

こゝに卑近な事例を上げて見ると某大製鐵工場において就職一ヶ年の少年産業戦士についてその體驗談を募集したところによると、就職二三ヶ月が最も苦痛の多い時であつたといふ點において殆んど異口同音に一致してゐることである。そしてあるものは先輩、職長らの鼓舞、激勵、なぐさめによつてこの苦難期を脱したことを語り、あるものは又、父母の教へ、教師の訓話を思ひ出すことによつて勇氣百倍したことを物語つてゐる。我々がこれによつて考へさせられることは、少年産業戦士輔導といふことについては、少年が學窓を出て職場に入つたのちのある一定期間がむつかしいといふことが先づ第一に考へられ、そのためそれらの少年が職場に入る前すなはち學業にある時代にも、教師父母が産業戦士たる前途の輝やかしさのみを



強調せず、これらの年の何れもがなめるであらう苦難期についてもこれを切抜ける心構へを十分に吹きこみ、有爲有能なる産業戦士に育つて行くよう訓育して行く用意が最も肝心なことと思はれる。又それと同時に前述の如くこれを受入れる側の職場においても、事業主職長あるひは先輩が學窓と職場との環境の急激なる變化による少年工の激しい氣持の動搖を出来るだけ喰止めるやう、平素から職場が上下を通じて研究して置き、少年産業戦士が實務につくに際して、いさゝかの幻滅さも感じさせぬやうな指導育成を實施しなければならぬと考へる次第である。

近時漸く少年産業戦士に對する一般の認識も高まりつゝあるがまだく社會全般のこれが認識に徹底を缺く憾みが多分にあるのである。今後一層の認識の徹底と指導を要望するとともに、單なる週間中だけのことに止めず倦まず撓まざる永久的輔導をいたされたいといふことを切に望んで置きたい。

少年工

三井 驥

膚なほ寒き春風のもと、父母の匂ひ秘めて少年工は職場に就く。

ただに兵士の如く逞しく、柔かき手の敬禮なれど、勝ち抜く決意は眉に籠る。

おゝ、君達の腕に燃ゆるもの、それが國を守りそれが日本の世紀に賭けられる。

痛き春風を突き大日章旗の火の玉を浴び少年工は職場に就く。(職場の光より)

### 事業主、職長級指導者に望むもの

少年産業戦士にとって工場はすなはち學校である事。業主はその校長であり、同時にそれら産業戦士の親でなければならぬ、工場が學校ならば職場職場はすなはち教室である。

少年産業戦士ははじめは何一つ出来ない純朴なまざり氣のない素人であり、それからいろ／＼の仕事を教はり、技術を學び、將來優秀な技術者にもなればつまらないものにもなるのであつて、自分の工場から一人でも多くの優秀な熟練工が出ると



いふことは、國家にとつては非常なる利益であると同時にその工場にとつてもこの上ない名譽である。

更には又それは事業主にとつての榮譽であり、それは何ものにもたとへやうのないほど立派なものである。事業主には、これらの少年産業戦士が一日も早く一人前になつて國家に御奉公してくれることを念願し、見守る温かき親の愛情がなければならぬのである。

前項にも若干觸れておいたところであるが、この少年産業戦士の輔導は決して單なる週間行事とかいふ期限づきで終るものではないのであつて、今少年工として働らいてゐるものも次の年にもなれば相當腕も出來て來る。さうすると又四月になつて新らしい學窓を巢立つた若々しい潑刺たる少年工が入社して來る。かうして毎年同じことが次々と繰返されて行くのである。しかし私は少年産業戦士の輔導を單に四月に入社したもののみに限定し、それに重點を置くことにはいさゝかあき足らぬ

いものを感じてゐるのである。

産業戦士がこの長期戦を見越しての大東亞戦争を勝ち抜くために常に變らざる緊張を持續するわけには仲々參らぬのであつて、それらの産業戦士に對してはそれ相應の適宜の措置と對策を必要とするはいふまでもない。たゞ今年入社したもののみに目標を置いて、馴ればあとはおつぱり出して置いて新入工の輔導にのみ力を注ぐといふやうな事では、結局それは極めて消極的にして狭い意味しか解さない方法であつて、私はそれらの人々に對する輔導を全部ひつ包んで少年産業戦士と云はず青少年工、すなはち産業戦士全般に對する輔導を絶えず續けることが必要であると考へてゐる。しかし少年産業戦士として四月入社してから二、三ヶ月の危険期を目ざして、この種の運動あるひは週間を設けて力を注ぐことには絶對反對など唱へるはずがなく、むしろ满腔の賛意と全幅的協力を惜しまないものである。

さて、しからは直接工場事業場にあつてこれら少年産業戦士の輔導に當る事業主



あるひは職長級指導者は如何なる點に留意しなければならないか、又如何にして善導しなければならないかを、感じたまゝ二、三述べて見たい。

少年工、と云つても入社してまた二、三ヶ月の少年工は勿論経験も足りない、技術も未定である。性格にも往々にして軌道を外れるものもある。それ／＼がいろ／＼に異つた性格を持つて入つて來るのである。そこで先づ少年工には訓練が第一に必要となつて來ると思ふ。しかしその訓練と云つても少年の心情を無視してたゞ單純に規律の枠にはめ、嚴なるをもつて唯一の訓練の道と考へるが如き考へ方では決してその目的を達することは出來ないし、それは餘りに少年の生きてゐる生活を無視してゐるからである。あるひは人はいふかも知れない、少年は統制訓練しにくいと、それ故に何よりも強壓を加へ、有無を云はせずこれに従はせその枠の中でのみ生活させなくては其の正常な生活は望み難いと。しかし少年は生きてゐるのであつて智慧も働らき感情も動く、人を統べようとするならば、先づその心を把へなくては

ならない。そしてこの心を把へる手は強壓を加へる手とは異らなくてはならない。ではなにかと云へば融合、裸になつて少年の群の中に飛びこむことである。

昨年をはじめて行はれた少年産業戦士輔導週間中、各所において、めつたに少年工の顔も見たことのない社長さんや専務さんが、むし暑い慰安會の會場に交はり、少年たちが智慧をしぼり苦心して練習した、稚拙であるが、ほゝ笑ましい劇に見入つたり、プラスバンドを聞いたりニュース映畫と一緒に眺めたりする風景も、又工場長さんが先頭に立つて汐干狩に出かけて思ひがけぬ少年の真情にふれたといふやうな風景も見られたと聞く。又各地方の産業報國會その他の主催の士氣昂揚大會とか厚生大會とかには、多數の少年工員が工場主や指導員に引率されて參集し半日一夕を楽しく過ごすとともに、少年たちは自分らの日々の勤勞と勉學をかく數多くの人から關心を持たれてゐることを過分にも胸に感じて郷愁を克服し、心の動搖を越えていよ／＼職域奉公の決意を固めたことであらうと考へられる。



少年たちは今やその純な心に、いやが上にも國家の大業への眞心と勤勞意志とを掻き立てゝゐる。この少年らの淨き心と勤勞意志とを傷つけず、豊かに育成して行くことが我々の今後の責務であると考へるものである。

物を生産するためには先づ人を育成しなければならない。恒久的な高度生産態勢を整へるためには、先づその根底たる人を育成しなければならない。否今日の産業人はその全生産の過程を通して人をつくることに職場がそのまゝ、人生の教室であり道場でもあることのために最も強き努力と創意を注がなければならない。そこで最後に私は事業主諸賢に、熱と愛とをもつて少年産業戰士の輔導につとめていただきたいと願ひすると同時に、

(一) 少年の體質や性格あるひは特長をよく見極はめ吞込んで、有爲有能な産業人にするために適材を適所に配置されたい。

(二) 社會人としての第一歩を踏みあやまらしめないうやうに、日本産業の重要性

と産業人の責務を吞みこませ、その奮起を促すやうに指導されたい。

(三) 集團行動に馴れさせるやうに訓練されたい。

(四) 感謝の念を抱かせるやうに指導されたい。

(五) 先輩友達などとの親和をはかるための、會合あるひは催しを隨時開かれたい。

(六) 保健衛生に關する知識を普及徹底せしめられたい。

(七) 生活の急變に對しては親心をもつて接し、特に寄宿舎では嬢から身の上相談に至るまで親切に面倒を見られたい。

(八) 健全娛樂の指導と提供に萬全を期せられたい、特にこれに關しては娛樂と享樂を履き違へないやうに教育善導されたい。

(九) 就職當時の大きい理想をこはさないやうに、又強い意氣ごみを持つて來たのを、くじけさせないやうに輔導されたい。



は、一人一人の力が完全に固まつてこそ眞の總力戦と云へるのであり、又それでこそこの大東亞戦争も勝ち抜くことが出来るのである。一人でもさういふ不心得者が居つたとしたならばこれは總力戦とは云へないのであつて同時に國家生産力の擴充はそれだけ少くなり、ひいては戦争の完遂もそれだけ遅れることになるのである。さういふことを次から次へと眞剣に考へて行くと、仇やおろそかに職場を離れて享樂をむさぼり遂には缺勤までするやうな事は絶対に出来ぬはずである。而して職長級指導者ならびに幹部勞務者は先づ「率先垂範しなければならぬ」といふことをいつも念頭において少年工の指導と訓練に當らなければならぬ。又作業の指導についても十分研究し、幼いものにもよく分るやうな方法を講じなければならぬ。その他作業上の命令あるひは指示などの傳達方法を研究する。これは特に言葉づかひ、態度などに對する注意を怠つてはならない。又機械の取扱ひについても、資材の節約とか機械工具類を尊重するやうに、精神的指導をも行はねばならないと考へてゐる。

要するに少年産業戦士を圍む一般職場人は、それら戦士の親とも兄弟ともなつてその輔導に當つては熱と愛とを傾け、純眞な産業報國の熟意を育み伸ばしその知識技倆を向上せしめるやう懇切に指導しなければならない。

### 家庭と一般社會に望むもの

工場における事業主、經營擔當者、職長級指導者、先輩などの訓育と指導をうけて、將來の熟練工を目ざしてスク／＼と伸び行く少年産業戦士にとつて、家庭は一日の戦ひを終つて戦塵を洗ひ落す勇士の氣持にも似たのびやかさを與へる唯一の慰安場であり、心の糧が待つてゐる。そこで工場における指導と相俟つて、家庭における理解と善き指導がなければならぬ。

従來の家庭の人々は産業戦士を目するに、たゞ家のために金儲けをしてくれる金



(十) 産業報國の精神を植ゑつけ昂揚し、勤勞の喜びと榮譽を認識せしめ培ひ伸ばすやうに工夫されたい。

右の十項目を是非實行されたいと切望するものである。さて又極めて多數の少年産業戦士を受入れる工場側において、直接これら少年工の指導の任に當るものは、いはゆる職長級の幹部勞務者である。そして先輩である。

それらの人々の一擧手一投足は新入少年工の注目のまゝであり、まだ入つて何も分らない少年工にとつて先輩は唯一の手本であり、見様見真似で先輩のあとを追はんとするものである。故に例へば先輩が手拭を首に巻いて、はな唄でも唄へば、ついその真似でもやりかねないのである。先輩諸君も實は一年あるひは二年前には、今入つて来たやうな新入工と同じ歓迎、歡待を受け、同じやうな氣持をもつてこの工場の人となつたに違ひないのである。そこで少年工を指導するには先づ自分が當時の新入工の氣持になり切らねばならない。そして自分の苦しんだことを教へその

對策を教へ、褒められた事どもを教へることによつて少年工を自然と善導して行かねばならない。感じ易い少年工の氣持に同情するに履違へた慰樂を與へることは絶對禁物である。例へば一つのをしくじつても、これに對して「まだお前は何も出来ないのだから、しくじつても仕方がない今度からうまくやれ」といふ風にちよつと頭を軽く抑へてやるとか、あるひは「たゞ技術を磨くこともいゝが、本も無論大いに讀まなければいかんよ」といふ風に讀書熱をあふるとかいふ風に、いろ／＼少年工の指導には細かいところまで十分の注意が肝要である。もしも先輩諸君が少年工を意識的に享樂方面へ誘つたとしたならば、その少年工は再びもとのやうにはならない。同時に生産量の上にもそれが微妙に響いて來るし、國家にとつて非常な損害である。

もしさういふやうな事があればその少年工をあやまらしめた先輩の責任は全く萬死に價するものと云へよう。現在日本が如何なる場面に遭遇してゐるかを考へる時



は、一人一人の力が完全に固まつてこそ眞の總力戦と云へるのであり、又それでこそこの大東亞戦争も勝ち抜くことが出来るのである。一人でもさういふ不心得者が居つたとしたならばこれは總力戦とは云へないのであつて同時に國家生産力の擴充はそれだけ少くなり、ひいては戦争の完遂もそれだけ遅れることになるのである。さういふことを次から次へと眞劍に考へて行くと、仇やおろそかに職場を離れて享樂をむさぼり遂には缺勤までするやうな事は絶対に出来ぬはずである。而して職長級指導者ならびに幹部勞務者は先づ「率先垂範しなければならぬ」といふことをいつも念頭において少年工の指導と訓練に當らなければならぬ。又作業の指導についても十分研究し、幼いものにもよく分るやうな方法を講じなければならぬ。

その他作業上の命令あるひは指示などの傳達方法を研究する。これは特に言葉づかひ、態度などに對する注意を怠つてはならない。又機械の取扱ひについても、資材の節約とか機械工具類を尊重するやうに、精神的指導をも行はねばならないと考へてゐる。

要するに少年産業戦士を圍む一般職場人は、それら戦士の親とも兄弟ともなつてその輔導に當つては熱と愛とを傾け、純眞な産業報國の熟意を育み伸ばしその知識技倆を向上せしめるやう懇切に指導しなければならぬ。

### 家庭と一般社會に望むもの

工場における事業主、經營擔當者、職長級指導者、先輩などの訓育と指導をうけて、將來の熟練工を目ざしてスク／＼と伸び行く少年産業戦士にとつて、家庭は一日の戦ひを終つて戦塵を洗ひ落す勇士の氣持にも似たのびやかさを與へる唯一の慰安場であり、心の糧が待つてゐる。そこで工場における指導と相俟つて、家庭における理解と善き指導がなければならぬ。

從來の家庭の人々は産業戦士を目するに、たゞ家のために金儲けをしてくれる金



蔓だ位にしか、考へてゐなかつたやうである。今でもこれらの産業戦士を舊態依然たる觀念で目してゐる人があるとすれば、決して優秀なる産業戦士はそのやうな家庭からは生れて來ないのであらう。

産業戦士の指導訓練といふことは、工場の門の内外によつて區別はないのであつて、工場の中において立派な産業戦士であるならば、工場を出て家庭に歸つても立派な生活が出来るのである。それと同じ意味で家庭において立派な生活をして居るなれば、それは工場内にあつても立派な産業戦士としての活躍が出来るものと確信する。私は家庭にあつて立派な人間であれば、工場にあつてもはじめて立派な産業人が出来るものと考へ、その意味からしても家庭における産業戦士の指導は極めて重大であると思つてゐる。家では餘り立派な生活をしてゐないものが工場ではよく働らくとか、立派な産業戦士としてやつてゐるといふやうな話は私は全然聞かない、又そんなことはあり得ないのである。故にその立派な産業戦士をつくり出すために

は何をおいても深い理解と覺悟とをもつて育むと同時に少年自身に誇りを持たせなければならぬのである。

「第一線の兵隊さんは銃をとつてお國のために身命を賭して戦つて居られる。お前は銃こそ持たないが銃後にあつて生産戦線の第一線に腕をふるふ産業戦士である」といふ誇りを持たすことが先づ第一である。前線で倒れるのも生産場で倒れるのもお國のためである。

畏れ多くも 明治天皇の御製に

國を思ふ道に二つはなかりけり

いくさの庭にたつもたたぬも

と仰せられてゐる、又本居宣長は

敷島の和心を人間はば

朝日に匂ふ山櫻花



と歌つてゐる。山櫻のごとく美しく咲き清らかに散らんとする精神こそ世界に誇る日本の傳統的精神である。この大和心を胸中に烈々と燃やし、出でては前線に敵を蹴散らし、内にあつては銃後増産戦線にたゞ國のため君の御ためと勵む姿こそ實に尊いものがある。その重大使命を擔ふ産業戦士、殊に將來日本の土臺石となるべき少年産業戦士を理解ある育くみによつて立派な熟練産業戦士に仕上げねばならない。例へば郷關を出て工場に入つた我が子に對し、親は常に手紙をもつて激勵するとか、あるひは工場の係に、あるひは工場經營者に自分の子供の長所、缺點を教へるとか、いろ／＼の方法によつて工場と家庭の意思の疎通を計るやうにする。あるひは又工場に赴くに際して産業戦士として持つべき覺悟を訓し衿持を持たすやうにする。可憐なる少年戦士が郷關を出て職場に向ふ時、父母兄弟、姉妹等の激勵、理解ある歡送は更にその純真なる決意を倍加し大いなる後援の力となるものである。大東亞戰爭勃發以來、第一線の勇士に劣らぬ感激的美談は幾多あつたか知れない。』

國民學校を卒業して軍需工場に勤務中、殉職した少年工の父兄の手紙は何れもこの殉職をもつて「お國のためである」あるひは「家門の譽れである」と、嘆くどころかその殉職を光榮とし、いさゝかも取り亂すところなく、事に臨んでの立派な覺悟を披瀝したと聞く。この親にしてこの子あり、寔にその真情や悲壯である。陸軍省整備局工政課長八里大佐は前線と一體となつて血に結ぶ工員魂を次のやうに語つて居られる。

「出勤の際不幸交通事故のため兩足を切斷した某造兵廠の加藤茂松君といふ少年工は、傷痍革まり死期迫つた時、工場の制帽を自らの顔に乗せ、

「班長どの今日は七十しか上りませんでした、すみません……。」

と謔言のやうに呟いたが枕頭にゐたその母は愛兒の死に直面しながらも、

「茂松、お前は軍人でこそないが立派な兵器をつくるお國の工員です、天子さまの萬歳を唱へて死んでおくれ。」



と痛ましくも健氣に激勵すれば並るる同僚はその子その母の神のごとき姿に哭いて感動、いづれも進んで輸血を申出で、又工場長も

「どんな體になつても職場は温かくお前を待つてゐるぞ。」

と慈愛こもる激勵の言葉を與へたのである。死してなほ思ふ職場への責任、愛兒を失はんとして莞爾として勵ます軍國の母、慈愛に満ちた工場長の態度、これは銃後にいそしむ一工員の實例をあげたに過ぎぬがこの至情至誠こそ國難に處する一億國民の眞實の姿なのである。家庭における人々の温かき愛は産業戦士の苦勞も疲勞も一ペンにふつ飛ばしてしまふ。その意味において家庭人の中でも母親のつとめはなか／＼重大である。人が死に瀕したときと呼ぶのは父親にあらずして「お母さん」といふ一言である。少年はすく／＼と技術を學び、だん／＼熟練工の域に上つて行く、やがては大東亞共榮圏の次代を擔ふに至るであらう。それらの人々を育成する重大な役目は誰でもない、母親自身が背負つてゐるのである。」

これは家庭における少年産業戦士の輔導について申し述べたのであるが、たゞに家庭、職場における一部関係者のみでなく、これは廣く一般社會の問題であつて今や國家の隆昌は産業の如何にある時、少年産業戦士輔導週間がわづか一週間の短時日であつたに拘らず、廣く一般社會に呼びかけ産業戦士に對する新たなる認識を喚起したことはその催しが時宜に適したものとといふのみでなく、蓋しその効果には見るべきもの甚だ多かつたものと思つてゐる。

しかし乍ら屢述のごとく輔導週間といふ週間の行事は決してそれが最後の目的ではないのであつて、その週間の行事が如何に華々しく行はれたとしても、決してそれで満足出来るものでないことは云ふまでもない。

而して同時にこれは大日本産業報國會が主唱して行つたものであるが、決して産報運動が一つの新しい形式の行事を加へたなどといふやうなことに終つてしまつてはならないのである、又この運動が職場における一部の人々だけの行事に終つて



しまつてもいけないのであつて、飽くまでもこの行事が職場全體のものとならなければならぬと同時に社會全體の問題ともならなければならぬと確信するものである。例へば職場外における青少年の生活といふ點について見ても、輔導上から考へて先づ娛樂機關をもつと明朝化しなければならぬと考へる。すなはち健全娛樂といふものがそれであつて、これは前述の輔導といふことから考へると一番重要な事項ではなからうかと考へるのである。

而して又體育教養などの社會施設なども偏在せしめず、もつと勤勞者の生活に即した普遍的なものとならなければならぬ。又出版物にしてもさうである。もつと勤勞する青少年に適するやうな良質のものが潤澤にならねばならぬ。つまり社會全般が勤勞する人々の楽しい慰安場となりもつと明朝にその生活教養を富ますところの勤勞者の庭とならねばならぬ。これを要するに職場における勤勞者の、殊に少年産業戰士の輔導と育成には全般的社會との密接な協力がなくては到底所期の効果

果を期待することは出来ない。職場は今や全く質的に新らしく生れ變らうとしてゐる、嚴しい勤勞と生産の名譽を擔つた産業戰士の脈々たる情熱が波打つてゐる。社會は今こそ従來の「職工」といふ舊觀念を拂拭して時代の尖端を行き、近代總力戰の重責を擔ふ産業戰士に新たなる認識と感謝を捧げなければならぬ。

産業戰士とは、いふまでもなく戦場で戦つてゐる戰士と同じやうに産業界で戦つてゐる戰士といふことである。大砲、銃、彈丸、服、劍、飛行機、戦車、軍艦、通信機その他ありと全ゆる兵器は直接産業戰士のつくるものである。これらの事柄に眞摯な思ひを致す時、誰かその努力に感謝せざるものがあらうか、皇軍が無敵であるのは大和魂とともに優秀なる兵器のあるためである。その兵器をつくる産業戰士も又同時に無敵でなければならぬ、又無敵なのである。

大東亞戦争を勝ち抜くために前線では肉弾戦を演じてゐるが、銃後にあつても銃後と銃後との戦ひを續けてゐることを忘れてはならない。我々は如何なる努力をも



惜しみますに、生産力の擴充に出來得る限り協力せねばならない、そこで先づ我々は何をおいても産業戦士を勞はらねばならない。特に次代を擔ふ少年産業戦士に對しては、尙更努力を惜しんではならないと考へるのである。

### 『不良工』問題について

一體私は思ふのであるが、現在の世の中において「不良工」などと呼ばれる産業戦士が實際に居るのであらうかといふ事である。大東亞戦争はじまつてからは、一億一心全く總力戦の形においてこの難局に處してゐるのである。いつか東京において檢舉された三萬の不良のうち、およそ一萬人が産業戦士であつたといふことがデカ／＼と新聞紙上に發表された。私はあの記事を見た時に薪で頭をガンと殴られたやうな衝動にうたれたのであつた。そして新聞といふものに對して限りない憤りを感じたのであつた。現下の時局に處する國家の要請するものに沿はんとするには餘

りにもその扱ひに非常識な、而して舊態的傾向を窺知したからである。これについては私は機會あるごとに人に説くのであるが、こゝには紙幅の関係上詳述は止めて置く事とする。

扱て大日本産報あるひは厚生省自信も不良工の防止といふ事について相當研究して居られると聞いたのであつたが、私はその關係者に會ふ度に防止に非ずして輔導に非ずやと反問し來つた。さり乍ら不良工といふ烙印を押されることはその人間の一生を臺無しにされる事であると云ふも過言ではなく、その烙印を捺された産業戦士の氣持は如何ばかりであらうか。當局者は云ふ、『それも致し方ない』と、私は常に主張してゐるのであるが、その因つて來る原因を深く探求するの要があり、その原因を除去しなければ絶対にこの問題は解決されず、いつまで立つても防止の方途しか立たないであらうと、前述の如く輔導といふ意味はそこにあるのである。

『しかし産業戦士諸君よ、今や大東亞戦争は完全に長期戦の相貌を露呈したのであ



る。君らの自覺はこの長期戦を戦ひ勝ち抜く原動力である。この戦争完勝の鍵は君らの手にある。その時において若しも良からぬ産業戦士が居るなれば、君らの名譽のためにこれを匡正して欲しい」と私は願ひする。

私が前述の新聞記事を携げて某飛行機工場に行つて、ある産業戦士に會つた時、彼はまなじりを上げて私に次のように語つた。

「我々はみな善良な産業人である。我々の同僚がそんな不名譽な事になつたかと思ふと情ない。しかしその人も本當は立派な産業人に違ひない、魔がさしてその憂目を見たのであらう、それもこれも結局その人達を輔導する人達の責任ではないか、勿論我々の自覺も必要である。しかし健康なる肉體と精神を培ふ施設があれば、その人達も救へるのではあるまいか」

まことにこの言には同感であつた。最近の社長重役の陣頭指揮が極めて強調されてゐるのも、一つはかういふ所に注意しなければならぬのではないかと痛感する

次第である。一萬人の産業戦士が十二分に力を發揮すればその生産量は大きい、逆にこの人達がそんな不良であれば生産量は頗る低下する。何が何でも勝ち抜かねばならぬこの大東亞戦下指導者の責任の重大さはますます加重して來るのであり、口頭禪のみの陣頭指揮では意味がない、産業戦士は社長重役の出現をじつと待ち侘びてゐるのである。子の心親知らずでは何の職域奉公が出來よう、何の總力戦ぞやである。

又産業戦士諸君もよき産業人であればこそよき日本國民なのであつて、戦争と生産に驀進する皇國民としての義務と責任において、日本人としての最善を盡されるやうに望んで止まない。



## 産業報國精神と産業人の鍊成

七六

### 常識について

私は昨年七月八日、茨城縣日立鑛山において大日本産業報國會主催の、我が國はじめての試みとして實施せられた第一回技能競練中央大會の採鑛部門の競練を視察に行つた。八日から九日十日と三日間、日立鑛山の本山でその競練大會が行はれ、坑道内およそ八百米の奥でドリルを使ひ、發破をかけ岩粉飛び散る中に奮闘する、たくましい地底の戰士の活躍ぶりを、目のあたり見ることが出來たのである。ドリルを使つて鑿で岩を鑿岩してゐる時などは、その岩粉で坑道内は忽ち眞つ白に塗りつぶされ、發破の音ははるか離れた坑口に遠雷の如き響きを無氣味に傳へて來る。そしてそれが一分のゆるぎもなく續けられ、ひたすらに増産へ増産へと活躍が續け

られて行く。あゝして花咲かぬ幾百幾千尺の地底で、鑛山の勇士は黙々と聖戰完遂へと躍動を續けてゐるのかと思ふ時、思はず目頭があつくなり、何ものかゞ、ぐつと胸に迫つて來るのを感じたのであつた。

この實技の競練と併行して、國民常識に關する口頭試問が本山事務所の樓上で行はれてゐた。私は、産報本部中央本部から出向いて來られた試験官である根上耕一技能部長の傍で、熱心にその應答を聞いてゐた。試験内容を一々こゝで詳しく述べるのは省くが、聞いてゐた私は何かしら物足らなさを、同時に淋しさを禁じ得なかつたのである。次に追々と述べて見ることにする。

先づヒトラー總統は誰知らぬものもなかつたが「ムツソリニ首相はどこの人ですか」といふ問に對しては、殆んどが何としても答へられないのである。答へたものの中でも誘導試問によつて實際分つてゐるのやら、分らないのやら不得要領のものであり、甚だしきに至つては「イギリスですか」などといふ珍反問が出たりして、



却つて聞くものをしてドギマギさせたものもあつた。しかし更に驚いたことには、あの大東亞戦争勃發と同時に神算鬼謀もつて米英艦隊を完膚なきまでに叩きつけた我が海軍の至寶山本五十六海軍大將が分らないのである。こゝに至つては私は呆然たらざるを得なかつたのである。なるほど鑛山で働らく人々にとつては、坑内にある時が極めて多く、ラジオを引き、新聞を取るにも何かしら、もつたいないといふ生活に對する眞劍さから、已むを得ないものもあつたであらうが、それにしても私は割り切れないものを感じたのである。

全國から選ばれて中央大會に出場するの名譽を擔つた優秀戦士にして、尙且つこれでは他が思ひやられて非常な淋しさに打たれたのである。同時に私は、その人達といふよりも、その人達を抱擁してゐるところの社會環境といふものに對して、憤りを感じたのである。しかしその人達は私にかう云つて呉れた。私は彼らの熱と誠實あふれる、するどい眼をこの目で見、その快氣焰をこの耳で聞いた。彼らは言ふ

「俺達には學問も何もない、しかし俺達には鍛へた腕がある。野放しの人間とは、わけが違ふ、俺達には技術がある」と。さうだ私は、いつまでも變らぬその意氣を持つて戦つてくれと心で祈り、ひそかに満足の意を表したのであるが、さて諸君、無敵皇軍には無敵産業と産業人が必要である。しかし無敵産業人は腕だけではいけない。ハンマーを振るひ、鶴嘴握るに學問は要らぬ、などといふのは全然古い考へであり、立派な産業人であるためにはそれに必要な學問があるはずであり、日本人として、この鐵のやうな心構へがなければならぬ。君達はこの世に生をうけて、はじめから世界最強國日本の産業戦士として、立派に勇を振るつてゐるのである。その生れながらの最優秀國の産業戦士が、常識もなく學問もないではこの大東亞戦争を勝ち抜き、東亞十億の勤勞者の指導者として立つて行けるであらうか。技術と學問と信念この三つが眞に混然三位一體となつて、はじめて優秀な産業戦士と云へるのである。たとへラジオがなくとも、たとへ新聞がなくとも、現在の日本が如何



なる立場にあつて戦争はどうなつて居り、外國との關係はどうなつてゐるか位は國民常識として知つてゐなければ、口に職域奉公、増産報國を唱へても、結局それは時局に便乗するものであつて、空念佛のそしりを免れないであらう。

鑛山に働らくもの、工場に働らくもの、ともに盡す忠義に變りはないのである。共に職場は戰場なのである。米英といふ、物資の豊富と兵器の多量と、人的資源の大量を誇り、その全てを戦争に動員してゐる最大國家を相手に戦ふ日本の銃後を擔ふ産業戦士は、何故日本が戦はなければならなかつたか、何故生産力の大擴充をやらねばならないか、なぜ俺達の責務が重大なのかといふことを自覺し、勤勞の誇りをもつて仕事に當らなければならぬ。ただ、むやみやたらに物を掘り物を造つても、それが分らなければ結局佛造つて魂入れずで、魂、すなはち眞の産業報國の精神がなければ到底この戦争は勝ち抜くことは出來ないであらう。

さらば、産業戦士諸君よ！『アジア十億の勤勞者を率いて立つだけの、情熱と教

養を持って』と叫びたい。

### 國家總力戰

國家總力戰といふ言葉は、支那事變が勃發してから間もなく聞かされはじめたのであつたけれども、しかし乍ら實際にはこの言葉の本當の意味がどういふことなのかであるかについては、一般國民には理解されてゐたか否か、頗る疑問を持たれてゐるのである。なるほど政府をはじめとして、各方面において『國家總力戰々々々々』といふことを聲を大にして叫んでは見たものの、これに對して一方國民の方ではそれほど敏感には感じないで、中にはまるで『そんなことは俺の知つたことぢやない』といふやうな傍觀者の如き態度をとつてゐたものも少くはなかつたと考へてゐる。そこでこのことについては國民の方も悪かつたかも知れないが、支那事變そのものの性格にもあつたと云へるのである。



それはどういふことかと云へば、支那事變は、はじめの方針である事變不擴大方針から飛躍して長期戦に入り、實際は日本の國家と民族の興亡をかけた大戦争であつたにも拘らず、宣戦も發せられずに移つて行つたといふことであつた。

これに比べると、昨年十二月八日に始まつた大東亞戦争は、全くその形と内容を異にしてゐるのであつて、相手が世界に誇つてゐた二大強國でもあるだらうが、それにも増して戦争状態が生ずるとともに直ちに 畏くも 宣戦布告の大詔が渙發せられ、戦争の目的が、目標がはつきりついたのみならず、敵米英に對する憎惡の念も、國民の間にはつきりと又相當深刻に刻まれたことに間違ひはないのである。さういふわけで、國家總力戦といふ言葉は大東亞戦争のはじまつたことによつて、國民は身をもつて體得したと云つて差支へないであらう。

餘談はさておき、とにも角にも今は何と云つても國家總力戦である。だがしかし一人一人が完全に自分の總力を發揮してそして、それが一つに集り纏つて一億一心

となつてこの戦ひを勝ち抜かうとする、それこそ本當の總力戦の態勢といふことが出来るのであり、もしもその一部において一人でも二人でも、怠けてゐたりするやうな人間が居れば總力戦とは云へないのであつて、又當然戦ひに勝つことも出来ないかも知れないのである。

『一億一心』と謂ふ『一億火の玉』と謂ふ、『聖戦へ民一億の體當り』などとも謂ふ、かういふ結構な標語が随分たくさん與へられてゐる。しかしこの標語もたゞ單に標語のための標語として、つまり『これはなか／＼いゝ標語だ、俺も何かいゝ標語でも考へてやらう』などと人ごとのやうに考へてゐては何にもならないのであつて、この標語をいつも頭に入れ胸に抱いて、自らを戒め自らが實行して行かなければ、こんな標語が幾千幾萬あつたところで何の役にも立たない、紙屑同然のものであり、得るところはむしろ紙の不經濟だけである。

日本國民として連戦連勝のこの、すめらみ國に生れたことに生甲斐を感じないも



のは一人としてゐないであらう。そこで、私が希望したいことは、この世界史の何頁を割いて見ても、書き切れない日本の勝利と世界的な役割の重大さを知つてゐるならば、そしてこの總力戦を勝ち抜くために、諸君の双肩にかゝつてゐる責任の重大さを自覺してゐるならば、單に口先ばかりに一億一心は叫ばれず、一億火の玉も稱へられないであらう。

そこで、しからばどういふやうにすればよいのかと申せば、この大東亞戦争が長期戦を覺悟しなければならぬ以上、我々はこの國民的な緊張をいつまでも持ちつづけなければならぬことは云ふまでもないことである。けれども同時に、長期戦に對應するやうに一時的な能率の増進といふことよりも、長期的な能率増進の方策を考へてかゝらなければならぬ。それは肉體と精神と技術であり、先づ常に長期戦に堪え得る肉體を錬成しなければならぬ。健全なる肉體には健全なる精神が宿るとは古來の名言である。この健全なる精神あればこそ、如何なる困難をも突破し

て優秀なる技術を修得することが出来るのである。それはひいては如何なる長期戦にも堪えることが出来るのであつて、この健全なる肉體あればその上に立つたところの精神と技術との一體化した國民的緊張をもつて、十年でも廿年でも勝ち抜く國家總力戦に對する構へに、いさゝかの弛みもないものと信するのである。

重ねて述べるが先づ國家總力戦とは、どういふことであるか、そこで我々は如何になさねばならないか、といふことをしつかりと腹におさめて、しかるのちに健全なる肉體を錬成し、そして精神と技術の一體化した國民的緊張をいつまでも／＼持ちつづけられたいと切望する次第である。

なほ總力戦と同じやうに、支那事變以來常套語になつてゐた「長期戦」の意味が大東亞戦一週年を期して大轉回をすることになつた。それは「長期戦」といふ言葉が含んでゐる、何かしら餘裕のある感じを一擲して、長期戦には違ひないけれどもそのうちに幾度も短期決戦を含むのだといふことに修正されたのである。



東條首相は

「戦争が長期化するといふことは當然であるから、一時に精力を費やすことは持久の途ではなく、又努力に手加減する必要ありとするものがあれば、それこそ大變な考へ違ひであり危険である。大東亞戦争は莫大な消費を伴ふ決戦の連続する長期戦なのである」と述べ、又谷萩陸軍報道部長は

「今日の長期戦は世にいふところの長期戦と、短期決戦との複合戦、つまりマラソン障害物競走と申してもよろしいと思ふ、複合的長期戦であるから、明日の決戦に備へると共に、數年先の事も考慮せねばならぬ」と述べられた。そして平出海軍報道部課長も

「我々は毎日の決戦を勝ち抜かねばならぬ、長期戦は我々の覺悟であつて決して希望ではない、しからは如何にしてこれを短期戦にするか、それは全國民が今日も決戦明日も決戦の意氣込み高く、一億が和をもつて心と心とを結ばねばならぬ」と何

れも決戦連続の長期戦に對する國民の認識と、覺悟とを促した、「長期戦」といふものの考へ方をかういふやうに變へねばならないのである。」

### 工員の決意

祖父達が何度も企てゝ あげ得ざりし  
喜びを 受くる幸ある世

て米英を屠るまで 戦ひぬかむことを  
誓ふ

十億アジアの民が 今新らしく築く共  
榮の光 神國の皇民なるわれ

眞赤な鎔鐵の火華の中に 幾百萬の兵  
士を支ふ産業戦士の一人 明日へ  
鐵石の魂は武器より強し

湧き上る歡喜と血潮を じつとおさへ

(神山榮三作)

### 職場も戦場



職場も戦場である。大東亞戦争の勃發によつて、皇軍は海に陸に空に赫々たる戦果をあげ、無敵皇軍の眞價を遺憾なく發揮してゐるが、一方我が産業戦線ではたゞひたすらに生産力の擴充に挺身し、第二戦線を死守せよとの氣魄をこめて、夜を日についだ涙ぐましい奮闘努力が増産奉公の一念こつて續けられてゐる。政府でもこれらの勤勞奉公に報ゆるために、勤勞顯功章令を制定して十分その報國精神に應へようとし、政治をするもの、働くものが一億一心、大東亞戦争の完勝に邁進してゐるのである。その時に當つて、隠れた産業戦線の逞ましくも美しい産業報國の美談を拾つて世に送らう。

#### 機械實働率増進運動の華

大日本産業報國會が、昨年一月末から四月末にかけて行つた、機械實働率増進運動は非常な好成绩をおさめて、第一期としての運動を終つたのであつたが、はからずも同運動期間中において、前線の將士にも劣らない固き團結力と、親子にも似た

職場指導者と勞務者の深き愛情のつながりによつて、正に銃後の殊勳甲と稱するに足る驚異的な成果をあげた工場があつた。『その手は桑名の焼蛤』で知られる三重縣桑名市にある東洋ベアリング工場がそれである。

同工場では産業報國會が、この運動を提唱した時には既に實行最中であつて、およそ一年前から機械實働率の増進に、たゆまぬ努力を續けて來たのであつた。さて實働率を調査しはじめた當初は、約五十%であつたものが、一年間經つた時には何と七十パーセントといふ驚くべき實働率を現はしたのである。一般に機械工業の機械はどの位の運轉率を示してゐたのかと云へば、先づ四十パーセントから五十パーセント、少しよいところで六十パーセントといふところであるが、その常識をはるかに突破して七十パーセントといふ高率を示したのである、おまけに之れに伴つて生産は倍加したとのことであつた。その技術部長は、

機械實働率増進運動といふものは、たゞ運動だけが目的ではなくて、直接生産力



の増強につとめんとする手段である。自分のところは、既に一年前からそれを實施して居り、なほ現在も實働率の増進につとめ作業、工場組織の改善にも深い考慮を拂ひ、勞務者の工夫も生かし全工場打つて一丸となつて、大いに馬力をかけて産業報國の念に燃え、生産に邁進してゐるから能率も更に更に上るでせう」と語つてゐたが、機械實働率増進運動は經營管理の改善運動であつて、それによつてより能率的な生産力擴充を圖らんとするものである。そしてこの運動の影響によつて、結果したものゝは、いろ／＼の意味において極めて興味のあるところである。又同じ機械實働率増進運動の期間中には女子勤勞奉仕隊の尊き汗の奉仕があり、はじめはその女子勤勞奉仕隊員の行つた神奈川縣下の某通信機工場でも『遊び氣分でやつて來たに違ひない、あんなものに出來るだらう』と高をくゝつてゐたところ、そのほとばしる愛國的情熱は遂にその工場の實働率の増進に、非常な寄與をしたといふ結果を生み、工場當局者の惜しむ中を又來る日を約束して歸つて行つたことなど、産

業報國運動の結實は數々の美談となつて傳はつて行つたのである。

### 落下傘部隊の蔭に咲く

昭和十七年一月十一日、ついで二月廿日、雄大なる我が南方作戰の銳鋒は蘭領東印度に伸びた。そしてメナド奇襲攻略戦に碧空を切つて、一ツ二ツ三ツ、遂には何百何千の純白の落下傘が、一時にパツと開いたお花畑のように、大空を覆つてしまつたのである。我が荒鷲と落下傘部隊は、近代戦における帝國陸海軍の貫録に更に新らしき光輝をそへてその聲價を世界に高め、敵米英をして心膽を寒からしめる偉勳を樹立した。それは航空機や落下傘の性能の冠絶さによることもさり乍ら、その蔭には全身これ愛國の純血と産報魂のかたまりとも言ふべき、生産女性の血のにじむやうな努力のあることを忘れてはならない。そも／＼落下傘の製作に従事するに ついては、なみなみならぬ苦心のあることは云ふまでもないところであつて、第一に、はじめは針がなかなか通らない。指抜きが外れたり、指先へ針が當つたりして



誰でも指が腫れ上り、中にはひょうそうを患ふ人も随分あるとのことである。次には布が純白であるために汚れやすく、汚れたものは元へ返されるので、夏などは特に注意しなければならず、その苦勞たるや言葉で現せないほど、並大ていの苦勞ではないさうである。しかし乍ら戦争は進展する、いつまでもぐづぐづやつてはゐられない。今度の戦争では日限を切つて大量に生産しなければならぬために、十五、六の子供でさえも徹夜で頑張つたといふことである。聞くことの一つ／＼が胸をうち、感謝しないものはない。十四、五歳から廿五、六歳までの若い潑刺たる乙女たちの手によつて作られた落下傘！ 熱い愛國の血潮と軒昂たる生産魂とによつて日に夜をついで作られた落下傘！ その純白の羽二重も純絹の紐もその糸も、さては糸をつくつてくれる蠶を飼ふことも、すべてこれ大和おみなの手を経たもの、その清純な傘が灼熱の陽光を浴びて南國の島々にお花畑のごとく降下した、そして全世界をアツと云はせる大戦果をあげたのである。全日本人を感激のるつばに投げこん

だその殊勳、それを作つた乙女たちの歡喜はけだし想像に餘りあるものがある。

古來日本婦人は家庭を守り、子女を教育することをもつてその本分とした。しかし今は外に出て生産面でも國家に御奉公することが要請されてゐる。それは飽く迄も優しい家庭の支柱であると同時に、雄々しい職場の勤勞者でもあれと求められてゐる。この落下傘部隊の蔭に咲いた生産女性こそ、まこと優美さと強靱性とを兼ね備へた日本婦人の龜鑑と稱してよいであらう。

### 職場に輝く産業人

昭和十六年の〇月〇日の朝のこと、日本航空平塚工場ではいつもの朝禮につづいて、異例の表彰狀が荒川總務部長の手から一青年に渡された。その青年は石川勝源と云つて青年學校四年生の十九歳、同工場第五工場調質工場第二期見習工として職域奉公の毎日をいそしむ人である。昭和十六年のある興亞奉公日の、しんと静まりかへつた工場内を巡回中の守衛さんが、ふと事務所に程近い太神宮の社前に一心に



祈りを捧げてゐる一人の工員の姿を見出した。誰もゐる筈のない時間にどうした事かと不思議に思ひ乍ら近よつて訊ねて見ると、『いくら休みでも今日の奉公日に會社の太神宮様にお参りするものがないのはいけないと思ひまして』と、いやみのない態度で返答する青年に、守衛さんはいたく感激し、その日はそのまゝ別れ、後日その事が會社に上申された。しかし一應感心する程度で日が経過した。ある日のこと第五工場の職長から『石川君は毎日作業終了後先輩同僚の、散らかしたあと始末を一人で引受けて整理してゐた』といふことが、勞務課へ持ち込まれた。一度ならず二度までも感心なことが報告され、何とかせねばと考へられてゐた矢先、又も保安係から『石川青年を表彰されたい、その態度と云ひ禮儀と云ひ又人柄と云ひ、毎日工門をくぐる人の中ですば抜けてゐる』と云つて來た。又石川青年は毎日出勤の途次、神社の前を通る時は必ず下車して最敬禮をし、上司の後姿に擧手の禮をする態度などが傳へられてゐる時、第三工場の職長田中九一氏から次の上申書が提出さ

れた。

『工場内の規律禮儀の正しい人でなくして、どうして魂の入つた兵器が出來ませう、私は石川君は一面識もないが、毎日の生活態度を見てたゞ感心してゐる次第である。是非とも表彰して他の模範とされたい』と平素筆を持つた事のない一職長から素朴なことを綴つて上申して來た。そしてその熱誠に遂に幹部會の議を経て表彰となつたのである。石川君は熱情家ではあるが、地味な性格で常に質素な清潔な服装をしてゐて、近所でも評判の親孝行で兄弟思ひ、どんな事があつても夕食は家でする由、取り立てゝ特殊な點とてない日常生活ではあるが、平常些細な行動のうち燦として輝やく産業戰士の自覺がこの美しい花を咲かせたのである。新たなる勤勞人格はたゆみなき生活態度から生れる、石川青年の行爲こそ味はへば味はふだけ深い感銘を與へずにはおかぬであらう。

### 忍耐の權化、玉井君



## 某炭炭坑・岡本坑内電工班長手記

石炭増産に拍車がかけられてゐた昭和十六年二月六日の事である。小隊長の作業命令は下つた。五十馬力コンプレッサの撤廢でその分解積荷作業である。分隊長の適切な命令一下、八人の隊員は眞剣に働いてくれるのだ。しかし破天井の重壓は機械座を狹隘にし、漏水は容赦なく降つて頭からびしょ濡れ、その上落盤の塊は車道を埋めて條件はあくまで悪い。重量の機械を積んだ臺車は、押せども引けども動かうともしないのだ。しかし全員集つての金剛力で見よ、數百貫の巨體は一寸二寸と動くではないか、誰もが底力を出したと見えて青い顔が赤くなり、そして笑顔になつた。この時何と運の悪いことか臺車は今度は深溝に脱線し、もはや人力ではどうにも仕方がない、智力を持つて車道に乗せるより方法はない、木材を持つて來てテコの應用、一、二、三聲を揃へてこれを越した時、突然、『あゝしまった、濟まぬ事をした』といふ人がある、見れば玉井英章君である。「どうしたんだ」と尋ね

て見ると「何、何でもなし」と又黙々と仕事を續けてゐる彼の態度に變りがないので、別に氣にもかけずに作業を續けて行つた。そして晝食の時刻が來た。各自が辨當を開いてゐる。しかし玉井君だけは足袋を脱いで足を見てゐる。何だらうと寄つて見て、はつと驚いた。彼の左足は淋漓と流れる鮮血で眞赤になつてゐる、自分は作業着を千切つて血をぬぐつてやつた。けれども血潮は後から後からと流れ出る。よく見れば親指の爪は離れて指の横合にあり、肉は紊亂してその形すらも變つてゐる、負傷して二時間も黙々と働らいて來た彼だ。私は、靜かに尋ねて見た「痛からう」と、ところが彼の答はかうである、「今日は 天皇陛下に申しわけない事をした」自己の苦痛を語らず先づ自己の過ちを至尊に謝し奉つたのである。私は彼が尙も働らかんとするのを無理に醫者に行くやうに命令した。産業人の負傷は不注意の罪を免れぬ。而もそれにも増して班の成績に影響する、否！ 總力戦下一人の力を失ふことが陛下に對し奉り、申譯けなしとする彼の信念こそ、前線の勇士と何の



異なる所があらう、その至誠その信念こそ産業戦士の鑑と讀へてやりたい。

その翌日である。幾ら強引な彼もあの傷では休むに相違ないと思つてゐた。しかし缺勤届が来ないのである。或ひは使の人と言傳けるのかと待つてゐた。定刻は来たが遂に姿は見えない、氣になつて小隊長の許しを得て玉井君宅に行くと、妻君が出て来て「玉井は今朝五時半ごろに行きました」といふ、私は餘りの感激に涙がこぼれた。負傷した彼は「歩行困難で同じ七時に出ては坑道一里の道は同輩に遅れるそれでは皆に濟まない」と先に出たのである。何といふ自我滅却の權化であらう、私はかゝる隊員を持つたことが無上の誇りである。その日の彼の作業ぶりは、いつもの彼と變りはなかつた。

#### 臨終の父を後に徴用の重大任務果す

昭和十〇年〇月〇日、『白紙應召』の名譽を肩に〇〇鐵工所に入つた土居政雄君  
〓本籍佐賀縣杵島郡須古村七一九〓の父義秋氏〓當時六十二歳〓は二年前から病氣療養中

であつたが、政雄君の徴用銓衡日たる昭和十〇年〇月〇日、遂に自家中毒にかゝり大町炭礦附屬病院に入院したのであつた。さうかうするうちに、政雄君の應徴の日は迫り應徴の前夜、奇しくも父義秋氏の病革り、〇日午後十時全く危篤状態に陥つた。枕頭に馳せつけ懸命に看護する政雄君の努力も空しく、翌日の午前二時卅分遂に逝去したのであつた。當日は同君の應徴の日であり、母かめさん〓當時五十九歳〓は悲歎のうちにも、我が子を勵まし、政雄君また敢然として徴用に應ずべく病院より實家に歸る父の遺骸に涙とともに別れを告げ、急遽大町驛に馳せつけ午前六時四十五分發の列車に飛び乗り、無事應徴の使命を全うし、その翌日、はじめて寮長に父の訃を告げたのである。驚いた寮長は早速許可を與へ父の葬儀に參列させるべく歸宅させたのであるが、その時既に遅く葬儀は終了して間に合はず、佛前に額を、今は亡き父の靈に己が無事徴用に應ぜし事を報告、終夜家人とともに通夜供養し、慌たゞしい旅を終へて許可時限前に無事歸寮したのである。



支那事變はじまつてからの日本は、老いも若きも一丸となつて「たゞ勝たん」との意氣こめて活躍してゐるが、中でも忘れてならないのは『白紙應召』の榮譽に輝やく應徵戦士であり、右の一篇は徵用戦士の美談として誇るに足るものがあらう。

### 國民娛樂と厚生運動

國民生活に娛樂が必要なものかどうかといふやうなことは、今更問題にするまでもないことである。娛樂は身心にはなくてはならない活力素であり、明日の生産への心の糧である。しかし乍ら世の中には往々にして、娯樂と享樂といふものをごつちやにして考へてゐる人があるのも又事實であつて、享樂といふものはお金のたく山あり餘つてゐて、自分の身も心も持て剩してゐる人が快樂を求めると、不健全な悅樂にふけることである。かういふものは決して娛樂ではない。これはお金の無駄づかひであるばかりでなく、國民の士氣の上にも悪い影響をおよぼし、その上

嘆かほしいことには國家の發展まで阻害するものである。こんな享樂的な生活は是非とも一掃する必要があるのは云ふまでもないことである。

ところが娛樂の中でも、この享樂的な雰囲気甚だ近いものが又澤山あるのであつて、その娛樂そのものが享樂的なものに近くはなるとも、その表現の方法などにおいて享樂的な生活へ國民の憧れの念を向けさせるものがあるのである。こんなものは娛樂と云つても全く享樂と同じやうなもので、國民を毒すると同時に國家を毒するものであることは論を俟たない。そこで、健全娛樂の問題が起きて來るのであるが、健全な娛樂とは、どういふものであるかと云ふと、一口に云へば明朝で建設的なものでなければならぬといふことである。國家の行ふ政策としつくり合つたもので、そして同時に國民を引きつけるものでなければならぬ。國民の生活とか國民の感情とかいふものと全く離れてゐるやうなものであれば、それは健全娛樂とは云へないし、國民は決してそれについて來ないであらう。



今までの我が國の娯樂といふものは、全部が全部健全な娯樂であつたとは云へないのであるけれども、又全部不健康なものであつたとも云ふことは出来ない。たゞ自由主義的な立場とか物の考へ方からして娯樂を供給するものが商業的であつた。商業的な考へ方に重點を置いて物ごとをやつてゐたといふことだけは、たしかであらう。今日まだ我々の記憶に新しい健全な家庭娯樂などと稱して、少女歌劇で裸の女が倒れさうになるまで足を何回となく上げたり下したりしたあの裸女群の登場となり、音樂にしても耳の鼓膜の破れさうな、たゞやかましいだけだとしか考へられないやうな流行歌とジャズが世の中を蹂躪し、映畫にしてもがその通り、その他いづれにしても建設的なものは何一つなく、その日暮し的なものばかりであつた。

ところが支那事變の勃發は日本の娯樂文化といふ面にとつては全く天佑であつたと云つてよいであらう。それから、いろ／＼の曲折を経て、今日に至つたのであるが、更に大東亞戦争がはじまつて娯樂の人心に及ぼす影響は爲政者の注目するところ

ろとなり娯樂の再検討が行はれ、今ではどうやら娯樂も聖戰完遂の線に沿つてレールの上を迂り出したやうである。しかし、まだ／＼一考も二考も要する點が少くない。厚生施設としての娯樂を観る時、當局の善導を切望するや大なるものがある。一般的な娯樂から云へば映畫演劇舞踊音樂と分けられ、その他趣味としての碁、將棋、俳句、川柳、連珠、和歌といふやうなものもあるが、何と云つても近年産業部門の急激な發展とともに、やゝもすると過勞に陥りやすい勤勞者に健全な慰安娯樂を與へよと叫ばれてゐる聲に應ずるものに映畫と音樂が擧げられるであらう。

### 一、映 畫

映畫を観るといふことは産業人にとつては、こよなく安價にして手近な厚生運動の一つであらう。この點については近ごろ厚生運動がやかましくなり、映畫も厚生の見地から取り上げられ、巡回映寫隊が編成されたり大分優秀な映畫が産業人に提供されるやうになつたのは喜ばしいことである。しかしこの程度では十分とは云



へないのであつて、映畫ぐらゐる産業人の娛樂として適切なものはないのであるから産業人と映畫とは、もつとく密接に結びつかねばならない。すなはち、映畫觀賞を通じて彼らの厚生を満足させ、明日の生産への活力を培養しなければならぬから、この際産業人に見せるための厚生映畫が特別に製作されなければならない。

このごろは大分國民映畫が作られ、逆に觀衆の心理状態を無視したやうな映畫が皆無とは云へないやうな現状であり、徒らな卑俗映畫も慎むべきだが、又觀衆から離れたものでもないけないのであつて、要は指導映畫とか厚生映畫をどんく作らなければならぬのである。そこで、しからは産業人に見せる映畫はどういふものが良いかと云へば、純指導映畫としては科學映畫や技術紹介映畫が好ましい。例へば關門トンネルの記録映畫、兵營の解説映畫などが出来れば非常なる成功である。その場合、いつも喧ましく云はれるのであるが十分の時間と經費を必要とする、今までは時と金を惜しみすぎてゐた嫌ひが感じられる。それに單に産業人を啓發するに

止まらず、廣く一般國民の教育にも益するところ甚大であらう。

その次には職場生活などを織りこんだ勤勞映畫が望ましい、國民映畫もとより結構であるが、まだく舊體制的愛慾葛藤映畫が時局の波に便乗して巾をかきさうとしてゐるやうである。私は最近の大日本産業報國會で作つた小畑理事長の映畫など幾分職場映畫に近いものを感じる。映畫シナリオの構成は別としてその映畫は、何故、われ／＼は生産しなければならぬか、何故われ／＼の責務が重大なのか、何故産業報國會が出来、産報運動が起つたかといふことを、はつきりと認識させ、しかも分り易く小畑理事長の話が教へてゐるのである。

しかしさういふものばかりを作れと云ふのではないのであつて、まだく不十分な事は勿論である。今後は眞に立派な勤勞映畫がもつと澤山作られ、産業人のみならず勤勞精神を廣く國民に吹きこむべく利用されるべきであると切に望んで止まない。某氏は産業人に與ふる厚生映畫の製作に當つては、



- 一、筋書の大要が健全明朗建設的たること
- 二、歪曲せられた涙や笑ひは強要せざること
- 三、伴奏音楽は必ず専門家に依頼して畫面や筋書に相應はしい音楽を作曲して貰ふこと

四、畫面に美術感を盛り繪畫的構成を満足させる畫面を多く採り入れること

五、文化映畫的場面をなるべく一、二、識りこみ單に劇映畫として見せるだけでなく知らず知らずの間に一、二の文化知識も注ぎこむやうにすること  
に留意しなければならぬと説かれてゐるが傾聴すべき言葉であらう。

今日の映畫、映畫館は以前のやうに單なる利潤追及の手段であつてはならない。國民厚生施設の一翼として重大な使命の遂行に邁進しなければならぬ。映畫館は國民厚生映畫の殿堂として、映畫がその大きな吸引力をもつて指導に當るときこそ眞の映畫としての價値が認められるものと信する次第である。

## 二、演劇その他

戦時産業に従事するものはその協同作業といふことが大切である。自分一人の行動は絶対に許されない。それは産業人のみならず全日本人がさうでなければならぬのであつて、いはゆる共歡共苦の氣持のつながりを持つやうにしなければならぬ、自分一人が楽しまず大勢が楽しむといふこと、更に望むらくは、その形を自ら手につくり上げなければならぬのである。厚生映畫、厚生音楽と並んで最近工場、鑛山において働らくものの厚生大會が催されはじめたことは寔に喜ばしい事であり、今後この傾向の助長されん事を切望する次第である。扱てこゝで職場における勤勞文化運動について一考を要することは先づ第一に、それが働らき乍ら楽しみ、それを通じて厚生を圖らなければならぬといふ事である。

例へば歌を唄ふといふことは胸を張ることになつて當然姿勢が正しくなる。更には歌詞を覚えることによつて、言葉遣ひを覚え言葉の使ふ量が自然と増加し、これ



はすなはち産業人の教養といふ問題と結びついて、自然的な人格の陶冶をはかることが出来ることになる。

第二には協同精神の確立をはかることになる。協同精神の涵養といふことは、音楽、映畫演劇など娯樂を産業人に與へるといふことと並んで二大眼目の一つである。これらの行事を実施することによつて協同精神を強固にして勞務者の共同化の促進をはかることが出来る。

第三には、職場におけるこれらの企ては大いに成長せしめなければならぬけれども、動もすると個人的な名譽のみを考へるやうでは、その目的から、狙ひから外れたものと云ふべきであつて、かういふやうな催しをすることによつて全體が楽しみ、かういふことによつて工場の明朗化をはかるといふ大きな理念を同時に把握しなければ單なる無軌道な娯樂に陥るおそれがある。これがためには工場における文化運動に理解のある、そして文化的感覺の持主が絶対必要であつて、その人達の積

極的な指導が大いに望ましいのである。勿論、その指導者たるものは人格者たることが必要である。かういふ話がある。

ある縣で縣の産業報國會が主催して縣下全工場参加の下に一大厚生大會を催したのである。それ／＼我こそはといふので猛練習をしてその大會に出て來たのであつたが、その内にある劇でラブシートのところへ來た時に、餘りにもそれが行過ぎて風紀紊亂を來たしたので早速上演を禁止したといふ話があつた。これなどはいはゆる健全娯樂としての劇を履き違へた不純なものを感じさせるものであらう。次には同大會においてチャンバラになつた、といふのはその劇のチャンバラの場面で昔の如くさう簡單には銀紙は手に入らずいはゆる竹光を使はうといふことになつたのである。ところが出演者がそれでは第一感じが出ないしこんな大きな催しに出るんだから眞刀で出してくれと云ひ出し、止むなく眞劍を持ち出したものである。これはいふまでもなく忽ち止めさせられたが、これなどはよき指導者を絶対に必要としそ



のまゝ放置して置く場合、決して良い結果は得られなかつたであらう。私はこの話を聞いた時に厚生運動としての指導者の教養を更に高め今の過渡期に善處しないと、いくら厚生大會を催しても見るものをして演ずるものをして却つて逆の方向へと追ひやるものと寒心に堪えなかつたのであつて、個人的褒貶にのみ氣を配るやうな指導方法は絶対に慎しむべきであると同時に、勞務者自身に健全享樂と娛樂との在り方の相違を、はつきり認識さすべきだと感じたのであつた。

又能率が下るといふ事も聞くが、これは結局指導の悪いためであつて私は逆だと考へる。これを適當に行へば明日の、又明後日の勤勞力を培養することが出来るのである。ある工場では社長さん自身がタクトを揮つて音樂の練習を毎日やつてゐた。ふと社長さんは考へた、一度これを休んでみよう、さうすると勞務者にどう響くであらうかと考へたのである。ところが驚くべきことには二割五分の能率の低下を來したとの事であつた。

日本の勞務者は大東亞の盟主としての自覺と矜持を持たねばならないのであつて今では職工といふよりもすべての勞務者は技術者なのである。そこで當然廣い教養を必要とし、それからして自重が要望されるのである。私は職場における勤勞文化運動の正しき成長を心から望むものである。

### 三、音 樂

今日の勤勞者は大仕掛な機械が耳を聳するばかりの音響を立て、廻轉する中で、汗と煤煙につままれて働いてゐる。この事が人間の精神や肉體にどんな影響を與へるか、工場勞務者の體位の低下や工場地帯の低級な享樂街の増加などを思ふ時青年勞務者の前途に暗い蔭を見ないわけには行かないのである。そこでこれを救ふために厚生運動といふことが必要になつて來るのであるが、その方法にも又いろいろあつて音樂によつて、勤勞者の生活にすが／＼しい空氣を吹きこむといふことは極めて効果が多いと考へる。音樂は最も手軽に楽しむ事の出来る藝である。音樂は共



共に聲を合はせて歌つたり、いろ／＼の樂器で合奏したりする協同作業とも云ふべき性質がある。と同時に音樂において一番大切なことはリズムであり、協同するといふ事とリズムを持つてゐるといふ事の二つは、職場における勤勞者の作業にとつてどんなに大切なものであるかは改めて述べるまでもないことと思ふ。

ところで一般に音樂と云へば、まだ多くの人はいはゆる人氣のあるレコード歌手が歌ふところの歌謡曲のことを云ふ。しかし私の云ふのは感能的な、低級な本能をくすぐるやうな音樂ではないのであつて、健全な慰安と明るい娛樂とは厚生運動のもつとも大切な要素であることを思へば、音樂も又斷じて健全さや明るさといふ性質から一步と雖も外れてならないのである。てつとり早く云へば勞働によつていためつけられた肉體や精神に、すが／＼しい氣分を與へ勤勞の喜びを鼓吹するやうな音樂でなければならぬ。ひどく低級でなく又感能の刺戟を目的としないものならば、大ていどんな音樂でもその用ひ方によつてこれを役立たせることが出来る。さ

ういふものの實際には、近ごろ盛んに唄はれる堅苦しい文句のついた國民歌謡を與へても、残念ながら多くの勤勞者たちは一應は歌つてみようとするけれども、すぐに見向きもしなくなる。さうすると、やはり前に云つた歌謡曲に戻つてしまつて健全な歌は生命を失つてしまふのである。

個々の人間の音學的教養を高めることは仲々むづかしい。しかし工場は一つの團體であり、その性格は當然あつて團體そのものの音樂的高さといふものがあるはずである。この團體としての音樂的教養こそその最高目標である。なぜなれば近時の産業の形態は常に集團的な協同の形をとつてゐて、工場における勞働者の生活は一つの集團生活であると云へるからである。しかし職場の人は個人的な考へ方に陥り易い、それはお互の氣持がバラ／＼になつて居るためであり、その紐の結びをつくるには産業戰士の自覺によらねばならないけれども、何と云つても職場が楽しいものでなければならぬ。職場の毎日は、そこに働く人にとつて恐らく睡眠時間を除



いて一日の大半である。そこに音楽がないとすれば何と淋しい事ではないだろうか、音楽こそ勤勞者の單調な生活に餘裕とうるほひを與へるものと信じて疑はない。樂譜の讀める讀めないはそれほど重要ではない、むしろ音楽によつて樂しみを知らる事の方が先ではなからうか、職場は一つの共同生活でありこの生活に本當の生きた生命を吹きこむには、共同の精神が人々の間にしみこんでなければならぬ。音楽はこの目的を達するに最も簡便で効果のある方法であると確信する。

### 産業戰士の健康増進

最近産業戰士の鍊成といふことが旺んに云はれはじめた。鍊成とは體を鍊るといふことと心を鍊るといふことである。

肉體的な鍊成については登山にハイキングに釣にボートに簡單に手軽く出来るものもあるがそれのみではなく、團體的鍊成としては角力、野球、庭球、蹴球、陸上競

技、排球、籠球、卓球、水泳競技など、その他夜營とか集團的鍊成部門もある。然し手軽く出来るものは登山、ハイキングを先づ第一に上げることが出来る。前述の如くに鍊成とは肉體的精神的訓練であるのが目的であるから、その訓練を行ふに當つて多額の消費を伴ふのは好ましくない。たとへば色眼鏡をかけ色靴下で半ズボン、上等のリユックサックを背負つて立派な、といふより贅澤な登山靴をはいて行く、などは、ハイキング自體には賛成であつても簡單美を伴はぬ見世物的なもの云つて差支へなく、私はかういふものには絶對反對であつて、それは不純な鍊成である。我々の周圍には消費を餘り伴はず十分鍊成することの出来る餘地が、いくらもある。いふまでもなく高度の國防國家をつくり上げるための第一の要件は健康であることは云ふまでもない。銃後にあつては生産陣の第一線に銃をとつては勇猛果敢な肉弾的突撃となつて現はれる、あのすさまじい大和魂のほとばしりは健康な肉體あつてはじめて發揮出来るものである。



前項においても述べたところであるが、あの喧騒そのものの工場の中で日夜生産戦線に活躍する産業戦士の肉體はそのまゝ放置する時、由々しい結果を生じることには火をみるより明らかな事であつて、例へばこゝに二人の同じ條件を持つた青年があるとする、一人は戦争に一人は工場にと分れた場合、何年後かに再會する時驚くべき肉體の相違を示してゐるであらう。そこにこそ産業戦士の健康は絶対に、等閑視することの出来ない重大性がある。

大日本産業報國會ではこの重大性に鑑みて十六年八月一日から戦時勞務者健康増進運動を展開した。それは工場を對象として休養、衛生、食堂各施設の整備とか勤勞ならびに休養の適正化、體鍊の日常實踐、歌唱による生活の明朗化など健康生活の確立を圖り産業戦士の體位の向上體力の保持につとめんとするものであるが、職場こそ産業人の第一の鍊成道場であるといふことを裏書きしてゐるものである。それは、職場は生産と同時に大多數の國民育成道場であり、今日の我が國青少年の過

半数は國民學校卒業と同時に工場事業場に入り、職場は量的に云つても青少年の勞働力によつて充たされてゐるのである。かゝる見地から健康問題を考へると、職場自體の健康施設といふ事はさう簡単に片づけられないことを痛切に感じる。

第一に休養施設の整備であるがこれについては簡単な休養場が設定されなければならぬ、最近の勞務者の激増によるといふか、この設備が大多數の工場に缺けてゐるやうに思はれる。卑近な話であるが私は東京市中の主要工場を十ヶ所餘り見たのであるが、極めて遺憾なことながらこの施設に満足感を覺えたことが稀である。例へば晝休みにしてもバラバラに無秩序に、あちらの隅こちらの隅にと、實にだらしない有様を見かける。これは一日も早く整備されたいと考へる。もし造るとすれば、(1)各職場、建物別にその一隅を整備し又は建物に附随して下屋出しとせる(なるべく東南又は北東の地位) 簡易休養場を設定して、戶外休養の不適當なる日の利用に

充つること



(2)簡易休養場の設定には特に左のことを留意すること

(イ)夏季北東の風通し良く日射を調節し得るやう装置を考慮すること

(ロ)室の内部は明朗安静なる雰圍氣を醸成するやう整備すること

(ハ)窓は成るべく開閉式とすること。

(ニ)なるべく作業室内部と全面的に遮断すること

右のことに注意しなければならない。

屋外の休養施設にしても各工場に満足な廣場又は芝生を見ることは稀であつて、たとへあるとしても、それが勞務者に開放されてゐるのは極めて少い。少しの休憩時間でも見つければその殆んどが通路を限つて競技してゐるとか簡単な遊戯をしてゐるとか、見るものをして淋しい感じを抱かせるのが、常である。何としても植樹、日蔭棚を用意した自然風の芝生によつて休養綠地とし又高温高濕の熱氣作業場については又前項の他水浴装置とかも設ける必要があらう。

次に職場内の食堂、浴場は勤勞者の休養對策に最も肝要であるから、その環境とか内部の構造の休養化を簡易休養場に準じて考慮しなければならない。又衛生食堂施設もその工場の位置によつて太陽の方向、食堂内の施設に萬全を期する要がある。さて次には健康生活の確立についてであるが、これは前述の産報の健康増進實踐要項がこの點について明確な指示を與へてゐる。それを左に記して見よう。

### (1)勤勞並に休養の適正化

(イ)單位勞働時間の能率を増進せしめ、なるべく長時間勞働を避け、もつて生産性の向上を期すること

(ロ)作業種別、作業環境などによる戦時下の勤勞時間並に休養時間は生産高能率の發揮、健康の保持(疲勞の回復)、文化的要求等の條件を考慮し實情に即しその適正化をはかること

(ハ)休養時間に於ては適切なる指導により、短時間に快適なる休養をとらしむる



こと

1. 休養施設の利用指導
2. 高熱重筋作業者に水浴、洗足を奨励
3. マッサージの指導奨励
4. 水および鹽の供與について考慮すること

(ニ) 適當なる睡眠は疲勞回復上最も重要なゆえんを徹底せしめること

1. 寢室の整備
2. 夜業晝眠者に對する特別の環境整備
3. 寢具の日光消毒の徹底
4. 早寢勵行
5. 就寢前の飲食を慎むこと

右に併行して體鍊も日常實踐しなければならぬ。勤勞者にとつては歩行を第一

に奨励しなければならぬ。歩行は最も簡単な方法である。それも正しき歩き方、走り方を個人及團體的に訓練する、特に通勤時の停車場、寄宿舍、住宅地帯と職場との間の團體歩行を訓練せしめて併せて交通訓練に資せしめる必要がある。歩き方については體操である。これは相當狭い場所にも容易に出来る最も簡單にして有效な方法であらう。その他水泳、體力章檢定、武道ならびにその他の運動競技、あるひは運動會によつて健康に對する各人の認識を昂揚喚起することも必要であらう。

次には歌唱による生活の明朗化を圖ることであるが、これは何と云つても第一に大聲で歌はせ無心に聲を揃へて歌はさなければならぬ。さて最後に一括して健康上の留意すべき點を列擧すると左の如くである。

- (1) 食生活の合理化
- (2) 疾病の豫防

(一) 結核



(イ) 集團検診

(ロ) BCG 接種の奨励

(二) 赤痢・腸チフス

(イ) 豫防ワクチン注射の奨励

(ロ) 手洗ひの勵行

(ハ) 検便の實施

(ニ) 蠅の驅除

(ホ) 飲食物の注意

(3) ビタミンの補給

(4) 體重の測定

以上の如くで、これは大體産報の戦時勞務者健康増進運動實施要項に依つたものであるが、少くとも以上のことだけは同運動實施期間中の問題に止まらないこと勿

論であるから、その實施は半永久的に連續的に實施せられたいものである。

東京市内某製靴會社の健康管理の實情はこの點極めて参考になるものであり、推奨するに足る施設を持つてゐたことを記して置かう。その社長は視察に行つた私にかう話してくれた。

「自分の方では勞務者の健康といふことについては實によくやつてゐるつもりである。この超非常時に際して病氣のものが一人でも多く出るやうなことでは國家に對しては不忠であり生産擴充も極めて困難に逢着する。まして今は勞務不足は極めて深刻である。もしも病人の出た時は、自分としては絶対に醫師の診断通り長期缺勤も許し、勿論その間月給は規定通り拂つて居る、中には「もう大丈夫だから出て働らきたい」と云つて來てももう少し我慢せよと云つて止める位に大事をとつてゐる。お蔭で病氣は全く稀である。それは何故かと云へば毎日々々體重を計つて居り、もしも毎日減つて行くやうな人間が居れば、きつと、どこかが悪いに決つてゐるから



醫師に直ちに診せるやうにしてゐる、病氣の早期発見は體重を計ることではなからうかと考へてゐる』

一人の勞務者の病氣、あるひはそれによる缺勤は幾人幾十人分の兵士の力を削減する。決して健康は等閑間視出來ない重大問題であり、生産擴充ひいては戦争完遂の大動脈であると確信する。

### 全産業一體事業一家

大日本産業報國會の綱領は全産業一體事業一家を謳ひ、もつて産業人として皇國の興隆に總力をつくすべきことを誓つてゐる。

一、我らは國體の本義に生き全産業一體報國の實をあげ、以て皇運を扶翼し奉らんことを期す

一、我らは産業の使命を體し事業一家職分奉公の誠をいたし以て皇國産業の興隆に

### 總力を竭さんことを期す

國家の隆替は一にかゝつてその國産業の如何にあること喋々するまでもなく、而してその産業を擔つて立つ産業人に課せられた任務も又重大であることは云ふまでもないところである。如何に我が皇軍が赫々たる戦果をあげてゐるとは云ひながら、國家の重大危機たるは申すまでもない。のみならず我が國をめぐる國際諸情勢を檢討して見る時、前途は決して樂觀を許さない重大性と複雑性を帯びてゐるのである。枚擧にいとまない雄大なる戦果にたゞ目を見張るばかりでなく、その蔭に費やした人と物の犠牲をも考へなければならぬ。

あの廣大な支那大陸に數十萬にもなる尊い青年の血を流し巨額の國帑を費して大東亞共榮圈建設のために戦ひ更に、決して悔ることの出來ない物と人との豊富な戦力を有つ米英と戦つてゐるのである。しかし乍ら生産力の擴充は國家至上の命令である。これは如何なる萬難を排しても、なし遂げねばならない。その時に當つて事



業場が混然一體となつて、しつくり融け合つた心を持つて仕事をして行かなければならない。でなければこの大東亞戦争はとも勝ち抜けないのであつて産業報國運動の目的もこゝにあるのである。既に御承知のやうにこの運動は、先づ第一に産業の目的は國家にあるといふことを全産業人に悉くこれを體得せしめるといふことにあるのである。我が日本は 天皇を中心として萬民ひとしく 天皇に歸一し奉り、各その分をつくして大御心を翼賛し奉るといふ、いはゆる君民一體の國であるが産業の目的が國家にあるといふのは、すなはち全産業人が心を一つにして君國に奉ずるといふことを、はつきり把握しようではないかといふ事である。從來のやうな産業上の基礎をなしてゐた個人主義をかなぐり捨て、自由主義の弊を脱却して奉公精神を基調として産業の運営に當らなければならぬのである。

たとへば、一事業場における事業主と勞務者の關係について考へて見るに、自由主義經濟の下においては事業主と勞務者との間の關係はいはゆる勞働といふものを

賣つたり買つたりするといふ風に考へられてゐたのである。しかしながら、この奉公精神を基調としたならば事業主の立場はその事業場に抱擁してゐる多數の勞務者といふものは單に勞働力の賣買の對象としてのそれ、あるひは勞働力の提供者と考へるべきものではなくて、事業主なるものは國家に代つて大事な國民を、おあづかりしてゐるのだ、國家に代つて大事な勞働力を保管してゐるのだ、といふ心構へを當然持たなければならぬはずであり、この心構へがあれば又自ら従業員に對する物心兩面からする福利といふことにも十分力を注ぐべきはずであるといふことになるのである。

又従業員としても單に金を貰つて自己の勞働を提供するといふやうな考へではなくして、事業主と協力し、その指導の下に勤勞の精神を發揮することが出来るのである。すなはち、「この工場は誰のものか」と云へば「これは株主、重役、職員勞務者全體が有機的一體となつて國家からおあづかりしてゐる大事な工場である」とい



ふ事になり、かくてこそ、はじめて事業一家職分奉公の誠をつくすことが出来るのである。

「工場を上御一人からおあづかりしてゐる」といふことは單に戦時下においてのみではない、新時代の生産の業に携はるものは營利を中心とした自由主義的功利觀念を一擲し、今こそ混然一體國家奉公の第一心義に徹する如く培はれなければならぬ。個々の獨立せる工場のすべてがすべて、この團結と融和の下に活動する時にこそ燃え上る炎の如き勢ひをもつて全産業がさながら一塊の火の玉となつて生産性を極度に向上せしめ、如何なる長期戦にも堪え得る磐石の底力が出來て來るものと信する次第である。

東條首相はラジオ放送にて「事業一家の實をあげ經營者を中心に和衷協同、全産業一體となつて皇國産業の興隆に邁進せられん事を切望する」と長期戦に處する産業人の決意と奮起を促した。参考のためその講演要旨を簡單に記して置かう。

「産業戦士たる諸君の献身的精神と不屈の氣魄の下に生産せられ輸送せられつゝある各種の兵器、彈藥、資材等は、第一線における皇軍將兵に向ふところ必ず敵を破碎する卓越無比の戰鬥力を發揮せしむるものである。又その戦線の命脈を長距離に保全する兵站力を充實し、更に國民生活の持久力を培養せしむるものである。今後の戦局を見るに、世界征覇の國力を誇つた米英兩國を徹底的に覆滅するため、皇軍は更に積極果敢なる作戦を遂行すべく、これとともに國家總力戦を激成すべき重大時機は今後にあるを覺悟せねばならない。而して産業部門の全體的能率を最高度に發揚することこそ、畏き聖慮に應へ奉るゆえんである。政府としては勤勞者諸君の保護と育成と又その活用のためには萬全を期する所存であるが、斯くの如き重責と同時に光榮を有する諸君が單に秩序と服従を重んじ、宜敷く事業一家の實を示し經營者を中心に和衷協同全産業一體となつて、皇國産業の興隆に邁進するとともにこれが中心たる大日本産業報國會が、いよ／＼本來の使命を遂行することを私は衷心



より要望するものである。

今や全國民は戦争においては必勝、建設においては必成を期し國民の一人々々が大君の醜の御楯となつて米英兩國を撃擯するまで戦ひ抜かんとしてゐるのである。諸君の今後一層の奮闘を切望する次第である』

### むすびの言葉

思ひ起せば一九一八年十一月九日、共和國建設の宣言がベルリンにおいて發せられドイツは恨をのんで列強の割取に甘んじた。全植民地は取り上げられ、徴兵制廢止、陸軍は十萬、潜水艦と空軍は禁止、ライン地帯は非武装と定められ、千三百億マルクの賠償金を支拂はされ、馬鈴薯は三割を失ひ鐵鑛八割、石炭四割、商船九割、鐵道一割、人口一割面積一割五分は獨領から姿を消したのである。

そのドイツが廿年後、一九三九年九月一日、驟然立つたのである。その征くところ

る正に歐洲の天地を震動せしめて敵なく、米英ソ三國壊滅はもう近い。我が日本はワシントン條約の不正を打破すべく昭和十六年十二月八日これ又一切の障礙を破碎すべく正義の戈をとつて立つたのである。

世界を動かすもの日獨伊三國、世界の運命を決するもの樞軸三國、一敗地にまみれたドイツでさへ立上つたのである。皇統二千六百餘年敗北を知らぬ日本民族が、燃えさかる試鍊の焰を突破し得ぬはずはない。

しかし乍ら我々は緒戦の大戦果のみに陶醉し心を緩めてはならない。我々は飽までも生産力を擴充し能率をあげ前線に必要な物資を間斷なく前線に送らねばならない。それは我々が戦ふことであり我々の一弾は敵を倒しそれが大東亞建設の號令となつて轟くのである。前線に流す血の一滴は我々の尊き血の一滴なることを知らねばならない。

そこで銃後における産業の態勢はどうかと云ふにまだくゞ完璧とは云ひ難い。



勞務の問題が事務的に取扱はれ、事務的でよい会社の業務關係問題が、何はさておいてもといふやうに扱はれてゐる。これではまだく事業主經營擔當者の物の考へ方、心の持ち方、やり方に本當に戰爭をやりつゝあるといふ自覺がない證據である。職長はどうか、これも單なる講習會位で能事終れりとしてゐる部面が多い。勞務者はどうか、最近の傾向として産業人の鍊成とか教養の問題がしきりに論議されてゐるが、その對象も單に産業人といふもののみを考へてはならない。よき産業人はよき日本人であるといふ觀點から考へねばならない。もしも勞務者教育とかその鍊成といふことが産業人あたりから痛切に叫ばれたとしても、それでは私をして云はしむれば資本主義的考へ方から一步も出てないと云ふ他はない、教育するものも、同時にされるといふ立場に立つて行動しなければならぬ。鍊成とは身心の鍛練とのみ解されてゐるやうであるが智育を忘れてはならない。厚生運動、厚生施設にしても檢討の餘地はまだくいくらもあらう。

さり乍らそれらは後日にゆづるとして先づこゝでは私は個別的な問題について一應述べてみたつもりである。

産業人に告ぐ、何が何でもこの一戦は戦ひ抜き勝ち抜き抜くために正に身を鴻毛の輕きにおいて職域奉公に邁進しようではないか。



產報資料

- △大日本產業報國會綱領解說
- △大日本產業報國會會則
- △勞働科學研究所規程
- △中央及地方勤勞協議會規程
- △中央鍊成所規程
- △產業別部會設置要綱
- △勤勞新體制確立要綱



△綱 領

△創立宣言

△綱領略義

一、綱領の意義

二、綱領の要旨

三、綱領の骨子

四、綱領内容概説

五、結 言

## 綱 領

一 我等ハ國體ノ本義ニ徹シ全産業一體報國ノ實ヲ舉ゲ以テ  
皇運ヲ扶翼シ奉ラムコトヲ期ス

一 我等ハ産業ノ使命ヲ體シ事業一家職分奉公ノ誠ヲ致シ以  
テ皇國産業ノ興隆ニ總力ヲ竭サムコトヲ期ス

一 我等ハ勤勞ノ眞義ニ生キ剛健明朗ナル生活ヲ建設シ以テ  
國力ノ根柢ニ培ハムコトヲ期ス



## 創立宣言

一三八

今や世界は未曾有の轉換期に際會す。皇國亦東亞新秩序建設に任じ、世界新秩序完成に邁進せんとす。その使命洵に宏大なり。然れども高度國防國家體制とその根幹たる新産業勞働體制を確立するに非ざれば、何ぞその使命を果し得べけん。

凡そ皇國産業の眞姿は、肇國の精神に基づき、全産業一體、事業一家、以て職分に奉公し、皇運を扶翼し奉るにあり。全産業人は、資本經營勞務の有機的一體を具現し、皇民勤勞の眞諦を發揮し、以て國力の増強に邁進せざるべからず。皇國躍進の基調茲に存す。我等皇國産業に與る者、夙に念ひをこゝに致し、恰く職場に産業報國會を組織し、産業報國精神の高揚實踐に挺身し來れり。爲に全産業人協心戮力の實漸く擧り、勤勞の創意、能力亦大に伸暢し、産業勞働界はその面目を一新せんとす。この成果と組織を總括して一大國民運動たらしむるの要、今や極めて切なるものあり。

皇紀二千六百年の秋、新嘗祭の佳き日をトし、我等こゝに大日本産業報國會を結成し、光輝ある新任務に就かんとす。我等の使命は、實に愛國の至情を産業報國運動に結集して曠古の國難を克服し、以て永遠不動の皇國産業道を樹立せんとするにあり。責務の重きを念ひ、決意更に新たなり。勇躍、我等行かんとす！

職場は我等にとつて臣道實踐の道場なり。勤勞は我等にとつて奉仕なり、歡喜なり、榮譽なり手段に非ずして目的なり。艱苦缺乏何かあらん。剛健なる意志、不屈の氣慨、範を垂れ衆を化し、塵烟の下、響音の裡、分を盡し職に生き、以て皇國の彌榮を效さむ。

右宣言す。

紀元二千六百年十一月二十三日

大日本産業報國會



## 大日本産業報國會綱領略義

## 一、綱領の意義

大日本産業報國會綱領は本會の使命及指導精神の大綱を示したものであり、同時に産業報國運動の窮極目標を明かにせるものであります。

## 二、綱領の要旨

右綱領の内容は之を一言に要約しますと、夫れは日本臣民道實踐の立場から、皇國産業人の盡すべきつとめ即ち勤勞の本義を明示し、本會構成全員の嚮ふべき道を表現せるものと謂ふことが出来ます。

## 三、綱領の骨子

綱領の三ヶ條は大日本産業報國會創立宣言に於て闡示せられたる本會存立の本義使命に立脚し

第一條は……皇運扶翼の大義奉行

第二條は……産業興隆の職分完遂

第三條は……勤勞生活の根基鍊成

を夫々その主目標として表現されて居るのであります。内容的には第一條の「大義奉行」を最高統一理念とする一貫體的のものであり、窮極する所夫れは萬古不易の日本國體原理に根ざす皇國産業人の責務本分其のものに歸着するのであります。

## 四、綱領内容概説

第一、「我等ハ國體ノ本義ニ徹シ全産業一體報國ノ實ヲ擧ゲ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ラムコトヲ期ス」

大意 本條は産業報國の根本義に關するものでありまして、其の大意は我等産業人は我が國體



のまゝに一心一體の誠を盡し、分に勵み、全産業一丸となつて只管に臣民の道を奉行する、此の大義を完うせむとする信念を表はして居るのであります。

通解

- (一) 大日本帝國は萬世一系の 天皇皇祖の神勅を奉じて永遠に之を統治し給ふ、之れ我が萬古不易の國體の本義であります。
- (二) 此の本義に基き、一大家族國家として億兆一心各分擔せる責務本分を盡して、大君に獻げ奉る、之れ我が國體の精華であり皇國臣民の道であります。
- (三) 此の萬邦に絶する國體と臣民道とは我が國史を貫く大事實であり、此の國民的信念こそ永遠に渝らぬ我が國體精神であります。
- (四) 我が國産業人が其の業を營み務に勵む所以も亦實に斯の國體精神に因り、又皇國臣民の道に基くのであります。
- (五) 我等産業人は皇民たるの責務本分を深く省み各職域に於て協心戮力、勤勞奉公の誠を盡す、産業報國の根本義はこゝに存するのであります。

(六) 又各般産業が分擔する任務は業態、事情に依り種々であります、皇國に對する其の責務本分は同根であり、其の指導精神は一であります。大御稜威の下全産業相携へ、共存共榮、一丸一體となつて各任務を盡さなければなりません。

(七) 斯くの如くして日本産業人は一心一體、職域報國の實を擧げ以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉らむことを深く期するのであります。

(之れ我が國體の本義に基いて産業に於ける勤勞の國家性を確立せむとする精神革新の中心目標であり産業報國運動の窮極目的であります。)

第二、「我等ハ産業ノ使命ヲ體シ事業一家職分奉公ノ誠ヲ致シ以テ皇國産業ノ興隆ニ總力ヲ竭サムコトヲ期ス」

大意

本條は皇國産業人の職分使命に關するものでありまして、其の大意は我等産業人は産靈の道に基く産業の國家的使命を體し、各事業體構成の全員が一家族の如く協和し、規律秩序を重んじ、職責本分に勵んで皇國産業の發展に全能力を擧げる、此の職分を完遂せむとする決



意を表はして居るのであります。

通解

(一) 我が國の産業は遠く肇國の原理、産靈の道に由來して居ります。即ち斯の道に基く生産の業務は物心一如生命創造の大道理に立つと共に我が國民活動の重要部門として國運の隆昌、國民文化の向上に貢献するを根本使命として來たのであります。

(二) 八紘一字の大理想の下、皇國存立發展の基礎として現代産業に課せられた責務使命の彌々重大なることは申すまでもありません。

(三) 我が國固有の家族制度は國體に則る國民生活の根基であります。家長を中心に家族全員克く協和團結、秩序を重んじ、本分を盡して、祖神に奉ずる、此の制度と精神とは我國企業體にも其のまゝに傳統顯現して居るのであります。

(四) 即ち、各企業體は企業擔當者を中心に其事業に據つて結ばれたる皇國産業人の活動體であり、家族的全一體であります。企業體内に於ける職制規律に基き、各人の分擔すべき任務は種々に差等がありますが、我が國傳統精神の下に全員一體各職分に奉公し職責を盡

す、之れ我が國の産業に於ける勤勞體制の眞の姿であり職分遂行が其の儘に盡忠奉仕の活動となるのであります。

(五) 我等産業人は斯の大義を肝銘するとき今こそ全員總起立總動員、皇國産業の興隆に向つて萬難を排し其の勤勞能力を高度に發揮せねばなりません。

(産業經營管理に關する、あらゆる作業及勤務上の諸問題も、叙上皇國産業の使命を體し、勤勞の生産性を高度に發揚するに役立たしむるの一事に歸着するのであります。我等産業人は此の點を深く覺り、皇國産業の眞姿顯現、以て未曾有の國難突破を期する次第であります。)

第三、「我等ハ勤勞ノ眞義ニ生キ剛健明朗ナル生活ヲ建設シ以テ國力ノ根柢ニ培ハムコトヲ期ス」

大意

本條項は皇民勤勞の眞諦に關するものでありまして、其の大意は我等産業人は眞の勤勞觀を確立し、全勤勞者相率む相勵まして生産人としての道義的、人格的眞生活を建設し、以て



國礎を長養する、此の眞諦を發揮せむとするの實踐道を表はして居るのであります。

#### 通解

- (一) 勤勞の本質は皇國民の盡忠奉仕活動其のものであります。故に勤勞は日本國民の責務であり、同時に榮譽であります。勤勞尊嚴の眞の意義は茲に存するのであります。
- (二) 皇國産業人は臣民道の本義に基き其の勤勞の國家性、生産性、人格性を一體的に高度に具現せねばなりません。
- (三) 茲に謂ふ勤勞は單なる勞働とは異り、勤勞する者の生活は國民としての人格的生活であります。従つて夫は大義奉行、職分完遂の責務を全うし而も産業人の思想文化藝術を創造する生活でなければなりません。
- (四) 斯かる全人格的生活は勤勞能力の鍛鍊、愛護、活用を主軸とする産業人自身の自立的創意的努力に依り建設せられるのであります。
- (五) 之により剛健明朗なる國民勤勞力を増強し以て萬邦無比なる我が國力の基礎を長養せむことを期する次第であります。

(皇民勤勞の眞諦を發揮せむには其の人格性の確立が前提となるのであります。茲に日本産業人の思想確立の根幹が包藏されて居るのであります。)

#### 五、結 言

本綱領は三にして實は三に非ず、畢竟するに、大御稜威の下、萬古不磨の國體精神を銘し、全産業人一心一體、純忠報國の誠を竭し、臣民道の本義を完うする「日本産業人の道」であり「日本の道」であることに歸着します。

又本綱領は産業報國運動の基本原理想たるものであります。即ち夫れは道義と經濟と人格との三者を一貫して結合する組織原理であり、日本産業經營體に於ける勤勞組織は之に依つて永く國民組織たると共に愛國團體たるの基針を示されるのであります。

更に又本綱領は勤勞の國家性、生産性及人格性確立の見地から、日本産業精神革新の方向を指すものとも謂ふことが出来ませう。我等産業人は企業經營體の構成員として又我國産業の分擔者として、常に本綱領の根本義を反省し、俱に共に心魂の練磨、勤勞能力の發揚、臣民道の



先行に向つて精進しなければなりません。斯様にして皇國産業の隆昌と其の正しい發展の爲に  
全員勤勞の實を完うして行かねばならないのであります。  
(以上)

## 大日本産業報國會會則

- 第一條 本會ハ大日本産業報國會ト稱ス
- 第二條 本會ハ産業報國會ヲ以テ組織ス
- 第三條 本會ハ大政翼賛會總裁統監ノ下ニ政府ト協力シテ産業報國運動ヲ全國的ニ實施統轄指導  
シ綱領ノ實現ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
- 一 産業報國精神ノ昂揚ニ關スル事項
  - 二 産業報國會員ノ教育訓練ニ關スル事項
  - 三 産業報國運動ノ指導者養成ニ關スル事項
  - 四 産業報國會ノ運営及事業ノ指導ニ關スル事項
  - 五 技能ノ向上其ノ他生産ノ高度能率發揮ニ關スル事項



- 六 勞務統制ヘノ協力ニ關スル事項
- 七 福利厚生、生活指導及勤勞文化ノ向上ニ關スル事項
- 八 産業勞働ノ調査研究ニ關スル事項
- 九 一般國策ヘノ協力ニ關スル事項
- 一〇 其ノ他本會ノ目的達成ニ必要ナル事項

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長
- 顧問 若干名 (内若干名ヲ常任トス)
- 審議員 若干名
- 理事長 若干名
- 理事 若干名
- 監事 若干名
- 評議員 若干名

第六條 (昭和十七年七月十日削除)

第七條 會長ハ大政翼賛會總裁之ヲ委囑ス

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

第八條 顧問ハ關係大臣及學識經驗アル者ノ中ヨリ大政翼賛會總裁之ヲ委囑ス

顧問ハ重要會務ニ付會長ノ諮問ニ應ズ

第九條 審議員ハ關係廳官吏、産業報國會關係者及學識經驗アル者ノ中ヨリ大政翼賛會總裁之ヲ

委囑ス

審議員ハ事業方針ノ決定其ノ他重要會務ニ參與ス

第十條 理事長ハ大政翼賛會總裁之ヲ委囑ス

理事長ハ會長ヲ輔佐シ會務ヲ處理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 理事ハ關係廳官吏、産業報國會關係者及學識經驗アル者ノ中ヨリ大政翼賛會總裁之ヲ

委囑ス

理事ハ理事會ヲ構成シ重要會務ヲ審理ス



第十二條 監事ハ關係廳官吏、産業報國會關係者及學識經驗アル者ヨリ會長之ヲ委囑ス  
監事ハ本會ノ會計ヲ監査ス

第十三條 評議員ハ道府縣産業報國會及地方鑛山部會役員ノ中ヨリ會長之ヲ委囑ス  
評議員ハ評議員會ヲ構成シ左ノ事項ヲ評議ス

- 一 歳入歳出豫算
  - 二 歳入歳出決算
  - 三 會費ノ分賦徴收方法
  - 四 資産ノ管理及處理ノ方法
  - 五 會則ノ變更
  - 六 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第十四條 役員ノ任期ハ二年トス但シ再任ヲ妨ゲズ  
官吏ニシテ役員タル者ノ任期ハ其ノ在職期間トス  
補缺ニヨリ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十五條 本會ノ中央本部ヲ東京市ニ置ク

第十六條 中央本部ノ事務ヲ處理スル爲事務局ヲ置キ之ヲ局又ハ部ニ分ツ  
事務局ハ理事長之ヲ統轄ス

各局ニ局長ヲ置キ理事ノ中ヨリ會長之ヲ委囑ス

會長ハ理事中若干名ヲ常務理事ニ委囑シ常時理事長ヲ輔佐セシム

事務局ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 中央本部ハ必要ナル産業部門ニ産業別部會ヲ置クコトヲ得

産業別部會部會長ハ會長之ヲ委囑ス

産業別部會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條ノ二 中央本部ニ労働科學研究所ヲ置ク

労働科學研究所ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條ノ三 中央本部ニ中央鍊成所ヲ置ク



中央鍊成所ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條ノ四 中央本部ニ中央及地方勤勞協議會ヲ置ク

勤勞協議會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本會ノ經費ハ會費、補助金、其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

會費ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 本會ハ評議員會ノ評議ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二十條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十一條 本會ハ道府縣ニ於ケル産業報國運動ヲ實施統轄指導スル爲道府縣産業報國會ヲ置ク

道府縣産業報國會會長ハ地方長官ノ職ニ在ル者ニ大政翼賛會總裁之ヲ委囑ス

道府縣産業報國會ハ必要ナル區域ニ支部ヲ置クコトヲ得

道府縣産業報國會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 本會ハ鑛山ニ於ケル産業報國運動ヲ實施統轄指導スル爲前條ノ道府縣産業報國會ノ

外地方鑛山部會ヲ置ク

地方鑛山部會部會長ハ鑛山監督局長ノ職ニ在ル者ニ大政翼賛會總裁之ヲ委囑ス

地方鑛山部會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 本則ノ施行ニ關シ必要ナル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條 將來本則ノ條項ヲ變更セントスルトキハ評議員會ノ評議ヲ經テ大政翼賛會總裁ノ承

認ヲ受クルコトヲ要ス



## 中央本部事務局規程

一五六

第一條 事務局ニ總務局、企畫局、實踐局及青年隊指導本部ヲ置ク

第二條 總務局ニ總務、宣傳、事業及技能競練ノ四部ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ル

### 總務部

- 一、會印及職印ノ管守ニ關スル事項
- 二、人事ニ關スル事項
- 三、表彰ニ關スル事項
- 四、役員ノ會議ニ關スル事項
- 五、文書ノ接受、發送、編纂及保存ニ關スル事項
- 六、豫算及決算ニ關スル事項
- 七、會費ノ徵收ニ關スル事項

- 八、財産ノ管理及處分ニ關スル事項
  - 九、金錢ノ出納、保管及用度ニ關スル事項
  - 十、其ノ他庶務、經理ニ關スル事項
  - 十一、他ノ局、部、室ノ主管ニ屬セザル事項
- ### 宣傳部

- 一、機關紙ノ發行其ノ他出版ニ關スル事項
  - 二、映畫、音盤等ノ製作ニ關スル事項
  - 三、ラジオ、新聞紙、映畫、演劇等普及宣傳並ニ慰樂機關ノ活用ニ關スル事項
- ### 事業部

- 一、作業用及生活必需物資ニ關スル事項
  - 二、不具廢疾病者ノ職業再教育ニ關スル事項
  - 三、榮養士、汽罐士、熔接士、安全係員等特殊技術者ノ養成ニ關スル事項
- ### 技能競練部

一五七



一、技能競練ニ關スル事項

第三條 企畫局ニ於テハ産業報國運動ノ重要ナル方針、事業ノ綜合企畫並ニ之ニ必要ナル調査ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル

- 一、産業報國運動ノ指導精神ノ確立ニ關スル事項
- 二、産業報國精神ノ普及徹底並教育鍊成ニ必要ナル事業計畫ノ樹立ニ關スル事項
- 三、組織ノ整備並ニ運営ニ關スル方針ノ樹立ニ關スル事項
- 四、勤勞管理一般ノ指導ニ必要ナル事業計畫ノ樹立ニ關スル事項
- 五、技能ノ向上、能率増進ニ必要ナル事業計畫ノ樹立ニ關スル事項
- 六、保健、勤勞文化、生活指導其ノ他厚生運動ノ指導ニ必要ナル事業計畫ノ樹立ニ關スル事項
- 七、青少年指導ニ必要ナル方針ノ樹立ニ關スル事項
- 八、其ノ他産業報國運動ニ必要ナル事業計畫ノ樹立並ニ調整ニ關スル事項
- 九、圖書、資料ノ蒐集、整理、保管ニ關スル事項
- 十、官廳、各種團體トノ連絡並ニ情報蒐集ニ關スル事項

十一、常務理事會及産業別部會ノ事務ニ關スル事項

企畫局ニ局長室ヲ置キ、情報、連絡、事業計畫ノ調整、及圖書、資料ノ蒐集、保管、其ノ他企畫局ニ屬スル庶務ニ關スル事項ヲ掌ル

第四條 實踐局ニ於テハ各級産業報國會ノ指導統轄並ニ運動ノ實踐ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル

- 一、道府縣産業報國會、地方鑛山部會及産業報國會ノ組織ノ整備強化ニ關スル事項
- 二、運動實踐ノ統轄ニ關スル事項
- 三、産業報國精神ノ普及徹底並教育鍊成ニ必要ナル事業ノ實踐ニ關スル事項
- 四、勤勞管理一般ノ指導ニ必要ナル事業ノ實踐ニ關スル事項
- 五、技能ノ向上、能率増進ニ必要ナル事業ノ實踐ニ關スル事項
- 六、保健、勤勞文化、生活指導其ノ他厚生運動ノ指導ニ必要ナル事業ノ實踐ニ關スル事項
- 七、一般講演會、大會、講習會ノ開催並ニ講師ノ派遣斡旋ニ關スル事項
- 八、貯蓄獎勵其ノ他國策並ニ各種國民運動ヘノ協力實踐ニ關スル事項
- 九、勤勞協議會ノ組織、運営ニ關スル事項



十、産業報國運動ノ実績調査及現地指導ニ關スル事項

十一、其ノ他産業報國運動ニ必要ナル事業ノ實踐ニ關スル事項

實踐局ニ前項ノ事務ヲ處理スル爲局長室及地域別ニ班ヲ置ク

局長室ニ於テハ全國ニ共通スル事業ノ實踐、産業報國會本社本部、中央勤勞協議會、講師ノ

斡旋及ビ各班活動ノ調整其ノ他實踐局ニ屬スル庶務ニ關スル事項ヲ掌ル

各班ニ於テハ當該地域内ニ於ケル産業報國運動ノ促進並ニ事業ノ實踐ニ關スル事項ヲ掌ル

各班ノ活動ニ必要アルトキハ職員ヲ地方ニ駐在セシムルコトヲ得

第五條 青年隊指導本部ニ於テハ産業報國青年隊ノ組織、運営ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長
- 參事
- 技師
- 副參事

技手

保健婦

書記

第七條 常務理事ハ理事長ニ直屬シ重要ナル企畫ノ協議ニ參畫ス

第八條 局長ハ理事長ノ命ヲ承ケ所管ノ事務ヲ總理シ局中各部署ノ事務ヲ指揮監督ス

參事ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ分掌ス

副參事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

技手ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

保健婦ハ上司ノ指揮ヲ承ケ保健事務ニ從事ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ補助ス

各局ニ部長、主査又ハ班長ヲ置キ參事又ハ技師中ヨリ會長之ヲ任免ス

部長、主査及ビ班長ハ上司ノ命ヲ承ケ所管ノ事務ヲ統轄ス



第九條 參事及技師ハ會長之ヲ任免ス

副參事、技手、保健婦及書記ハ理事長之ヲ任免ス

第十條 事務局ニ參與若干名（内若干名ヲ常任トス）ヲ置キ理事長ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委嘱ス  
參與ハ重要會務ノ企畫及活動ニ參畫ス

第十一條 事務局ニ指導員若干名ヲ置キ理事長ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委嘱ス

指導員ハ理事長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ述フル外特定ノ事項ニ付其ノ命ヲ受ケ調査、指導ニ當ル

第十二條 中央本部ノ事務ニ付必要アルトキハ事務局ニ委員會ヲ置クコトヲ得

第十三條 事務ノ都合ニ依リ囑託ヲ置クコトヲ得

第十四條 職員ノ給與ニ關スル規程ハ會長別ニ之ヲ定ム

第十五條 庶務、會計其ノ他事務處理上必要ナル規程ハ會長ノ決裁ヲ受ケ理事長之ヲ定ム

### 勞働科學研究所規程

第一條 研究所ニ第一乃至第十ノ部及總務部ヲ置ク

第二條 第一乃至第十ノ各部ノ掌ル研究事項左ノ如シ

#### 第一部

一 勤勞及勤勞生活ノ理念

二 勤勞文化史、勞働政策史、生産技術史、産業發達史、傳記

三 勤勞者教育

四 勞働ト音樂

五 勞務者ノ體鍊

六 農業勞務及農村生活、鑛炭山勞務、青少年勞務、婦人勞務、知的勞務、商業勞務、交通

運輸勞務



第二部

- 一 作業能力下體質體格及體力
- 二 作業能力下精神力
- 三 作業能力下性格及技能
- 四 適材配置、職業指導及補導、養成及訓練

第三部

- 一 作業方法及技術ノ鍊成
- 二 生産管理、工程管理及作業管理
- 三 作業組織
- 四 作業ノ安全化、作業ノ健康化、作業ノ能率化及工具ノ標準化

第四部

- 一 労働強度、作業速度
- 二 労働時間

- 三 夜業及交替制度
- 四 疲勞恢復及休養方法

第五部

- 一 換氣、濕度、溫度、高壓低壓
- 二 作業粉塵、有害瓦斯、有害生産資材ノ代替品ノ考案及防毒具
- 三 生産照明
- 四 工場騒音及震動ノ能率及健康
- 五 工場防空
- 六 労働被服及保護服
- 七 工場建築勞務者住宅

第六部

- 一 労働ノ榮養
- 二 食糧及配給



三 特殊補強榮養

四 共同炊事

第七部

一 職業性疾患ノ豫防及治療

二 産業結核及産業神經症對策

三 産業災害ト罹災者ノ職業指導

第八部

一 勞務者ノ健康管理

二 産業保健組織

三 社會保險（疾病保險、失業保險、癥疾保險等）

四 厚生施設

第九部

一 産業經營及國民經濟

二 勞働、社會政策

三 勞働組織體制

四 内外地植民地勞働事情

第十部

一 勞働人口及職業人口

二 農業勞働ト工業勞働トノ調整

三 中小工業問題

四 生計費及賃金

第三條 總務部ノ掌ル事務左ノ如シ

一 所印及職印ノ管守ニ關スル事項

二 人事ニ關スル事項

三 文書ノ接受、發送及保存ニ關スル事項

四 企畫ニ關スル事項



- 五 諸規程ノ制定及改廢ニ關スル事項
- 六 研究會議、所員會及學會ニ關スル事項
- 七 圖書及資料ノ蒐集、整理、保管ニ關スル事項
- 八 編纂及刊行ニ關スル事項
- 九 附屬養成教育機關ノ教務ニ關スル事項
- 十 講演會、講習會、展覽會等ニ關スル事項
- 十一 職員ノ訓練、教養及親和ニ關スル事項
- 十二 豫算及決算ニ關スル事項
- 十三 財産ノ管理、處分及金錢ノ出納ニ關スル事項
- 十四 營繕及用度ニ關スル事項
- 十五 他部ノ主管ニ屬セザル事項
- 第四條 研究所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 所 長

所 員  
主 事  
研 究 員  
主 事 補  
研 究 生  
書 記

- 第五條 所長ハ理事長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ統理ス
- 所員ハ上司ノ命ヲ承ケ研究ヲ掌ル
- 主事ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 研究員、研究生ハ上司ノ命ヲ承ケ研究ニ従事ス
- 主事補、書記ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス
- 第六條 所長、所員及主事ハ會長之ヲ任免ス
- 研究員、主事補、研究生及書記ハ理事長之ヲ任免ス



第七條 各部ニ部長ヲ置ク

部長ハ所員及主事中心ヨリ會長之ヲ命免ス

部長ハ所長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條 研究所ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

顧問ハ重要所務ニ付所長ノ諮問ニ應ズ

顧問ハ學識經驗ノアル者ノ中心ヨリ所長ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委囑ス

第九條 研究所ニ囑託、助手其他ノ使用人ヲ置クコトヲ得

囑託、助手其他ノ使用人ノ命免ハ所長之ヲ專行ス

第十條 研究上必要アルトキハ委員會ヲ置クコトヲ得

第十一條 研究上必要アルトキハ支所及出張所ヲ置クコトヲ得

第十二條 庶務、會計、職員ノ給與其他ノ事務處理上必要ナル規程ハ別ニ之ヲ定ム

#### 附 則

第十三條 本規程ハ昭和十七年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

### 中央勤勞協議會及地方勤勞協議會規程

第一條 大日本産業報國會中央本部ニ中央勤勞協議會及地方勤勞協議會ヲ置ク

第二條 協議會ハ勤勞新體制ノ趣旨ニ則リ工場鑛山其ノ他事業場ニ於ケル勤勞體制ノ整備刷新ヲ

圖リ産業報國運動ノ實踐ヲ推進スルヲ以テ目的トス

第三條 協議會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事項ヲ行フ

一 工場鑛山其ノ他事業場ニ於ケル産業報國運動ノ實踐推進ニ關スル協議

二 産業報國運動實踐ノ方策ニ關スル建議及諮問ニ對スル答申

三 勤勞ニ關スル知識經驗ノ交換及調査研究

四 其ノ他本會設置ノ目的達成ニ必要ナル事項ノ協議

第四條 地方協議會ノ事務所ハ之ヲ東京市、名古屋市、大阪市、福岡市及札幌市ニ置ク

第五條 中央協議會ハ委員長及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス



第六條 中央協議會委員長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

中央協議會委會ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ會長之ヲ委囑ス

一 地方協議會構成員

二 學識經驗アル者

三 中央本部役職員

四 其ノ他會長ノ必要ト認ムル者

中央協議會委員中若干名ヲ常任トシ會長之ヲ委囑ス

第七條 地方協議會ハ委員長、副委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條 地方協議會委員長、副委員長委員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ會長之ヲ委囑ス

一 工場鑛山其ノ他事業場ニ於ケル産業報國會役職員中ヨリ道府縣産業報國會會長又ハ地方鑛

山部會會長ノ推薦アリタル者

二 學識經驗アル者

三 中央本部、道府縣産業報國會及地方鑛山部會ノ役職員

四 其ノ他會長ノ必要ト認ムル者

地方協議會委員中若干名ヲ常任トシ會長之ヲ委囑ス

第九條 委員長ハ會務ヲ統裁ス

委員長事故アルトキハ中央協議會ニ在リテハ委員長ノ指定シタル委員地方協議會ニ在リテハ副委員長之ヲ代理ス

第十條 重要事項ノ協議ニ參與セシムル爲必要ニ依リ參與委員ヲ置クコトヲ得

參與委員ハ軍關係官及關係官吏中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第十一條 委員ノ任期ハ一年トス但シ重任ヲ妨ケス

特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ得

第十二條 協議會ニ幹事若干名ヲ置ク

幹事ハ中央協議會ニ在リテハ常任委員及中央本部役職員中ヨリ地方協議會ニ在リテハ常任委員並中央本部、道府縣産業報國會及地方鑛山部會役職員中ヨリ會長之ヲ委囑又ハ任命ス  
幹事ハ委員長ヲ輔佐シ會務ヲ掌ル



第十三條 特殊事項ヲ調査セシムル爲必要ニ依リ協議會ニ専門委員ヲ置クコトヲ得  
専門委員ハ委員中ヨリ又ハ委員外ヨリ會長之ヲ委嘱ス

### 中央鍊成所規程

第一條 大日本産業報國會中央鍊成所ハ理事長ノ管理ニ屬シ産業報國運動ノ推進力タルベキ人物  
ヲ鍊成スル所トス

第二條 中央鍊成所ノ鍊成要綱ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 中央鍊成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一名
教授	若干名
助教授	若干名
主事	若干名
指導員	若干名
主事補	若干名



第四條 所長ハ理事長ノ監督ノ下ニ所務ヲ統理ス

所長事故アルトキハ所長ノ命ズル職員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 教授、助教授ハ所長ノ命ヲ承ケ指導鍊成ニ任ス

主事ハ所長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

指導員ハ上司ノ指揮ヲ承ケ指導ニ従事ス

主事補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ補助ス

第六條 所長、教授、助教授及主事ハ會長之ヲ任免ス

指導員、主事補及書記ハ理事長之ヲ任免ス

第七條 所長必要アリト認メタルトキハ理事長ノ承認ヲ得テ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 職員ノ給與ニ關スル規程ハ會長別ニ之ヲ定ム

附 則

本規程ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



## 産業別部會設置要綱

一七八

### 一 産業別部會設置の趣旨

産業報國運動は發足後今日迄大體一般的乃至一律的目標の下にその活動を展開し來りたる處更に其の組織活動並に事業活動を充實強化するに當りては各種の産業毎に之が特殊性に應じて企畫を樹て具體性を賦與するに非ざれば十分の効果を收め得ざるものあると共に、現下の國家的要請に基き政府の執れる生産増強諸施策に照應し勤勞の生産性を發揮せむがためには特に各産業別毎に適切なる勤勞活動を實踐せしむる様指導するの要あり、即ち産業報國運動の具體的徹底及生産増強に關する國策協應を目的とし中央本部に産業別部會（以下單に部會と稱す）を設置せむとす。

### 二 部會の性格及機能

(イ) 部會は各産業別の特殊性に應じ中央本部の活動に具體性を與ふることを任務とする特別

機關とすること。

(ロ) 部會は當該産業部門に關する事項に付會長の諮問に應じ又は企畫審理することを以て主たる機能とすること。

### 三 部會の構成

(イ) 部會は左に掲ぐる者の中より會長の委囑せる部會員を以て構成すること。

(一) 當該産業の勤勞問題に通曉し且實力を有する重役級人物

(二) 關係統制團體幹部

(三) 其他必要と認むる者

(ロ) 部會には部會長を置き、部會員中より會長之を委囑すること。

部會長は部會の會議を主宰するものとする。

### 四 部會の區分

部會は差當り鑛業部門、重工業部門、輕工業部門、交通運輸部門、特別勞務部門等の中より必